

社会福祉法人 麦 2024年度事業総括 2025年度事業計画

目次：2024年度法人本部事業総括

- 1 法人運営
- 2 事業計画
- 3 地域公益活動
- 4 人材育成及び確保

2025年度法人本部事業計画

- 1 基本理念
- 2 運営方針
- 3 法人運営
- 4 事業計画
- 5 地域公益活動
- 6 人材育成及び確保

2024年度事業報告（利用実績等）

- 1、麦の里 利用契約者の状況
- 2、七色の麦 利用者の状況
- 3、生活介護麦の里
- 4、共同生活援助七色の麦
- 5、その他の職員配置
- 6、職員総数
- 7、職員 各種資格取得の状況

麦の里（生活介護事業） & 七色の麦（共同生活援助事業）

2024年度総括 2025年度事業計画

- 1 仲間全体
- 2 Aグループ
- 3 Bグループ
- 4 療護グループ
- 5 職員体制
- 6 グループホーム
- 7 作業活動とその他

活動報告書

社会福祉法人麦 2024年度法人本部事業総括

1、法人運営

1) 理事会・評議員会

理事会	2024年5月30日	2023年度事業報告案 2023年度決算案 2024年度補正予算案 監事監査報告 理事長業務報告など
評議員会	2024年6月20日	2023年度事業報告 2023年度決算 2024年度補正予算 監事監査報告 など
理事会	2024年10月31日	予算執行状況 補正予算案 など
評議員会	2024年10月31日	予算執行状況 補正予算 など
理事会	2025年3月27日	予算執行状況 補正予算案 2025年度事業計画案 2025年度予算案 など
評議員会	2025年3月27日	予算執行状況 補正予算 2025年度事業計画 2025年度予算 など

2) 監事監査

2025年5月初旬～中旬にかけて行います。

2、事業計画

1) 短期計画（1年～2年）

2026年までに第4ホームを建設します。

【ホーム建設候補地を2件検討し、うち一件について取得に向け検討中。】

麦の里・七色の麦の防災グッズは、必要な整備を進めます。

【備蓄食料、飲料水を更新しました。また、避難所仕切り用テント・車いす対応トイレ用テントを各1基購入しました。】

2025年10月Windows10サポート終了に伴いパソコン更新計画を策定。

2023年から3年計画でパソコンを更新する計画。

【今年度デスクトップパソコン1台、ノートパソコン2台、施設長・副施設長用ノートパソコン2台更新しました。】

正・準職員増に伴い職員室の机等レイアウト変更を行います。

【本部から提案はしましたが、検討されていません。】

第4のホーム建設に向け計画を進めます。

【中央設計に依頼し、候補地での図面を作成してもらいました。】

中期計画（3年～5年）

麦の里大規模改修に向けた点検及び改修の実施計画作成、実施。

【取り組めませんでした。】

長期計画（5年以上）

【大規模改修を除き、順調に進めています。麦の里では、非常電源設備の国庫補助申請を行いました。】

グループホーム事業の拡充

生活介護事業の拡充

麦の里大規模改修の本格実施

事業計画の繰り上げ実施緊急を要する場合は、各事業計画について繰り上げ実施する場合がある。

国の政策や経済的な状況等により、各事業計画の繰り上げ、繰り下げを行うことがある。

3、地域公益活動福祉有償運送事業の実施。

【利用者2名で実施。】

麦の里仲間の給食費軽減措置の継続

【物価高騰等による経費増を法人で負担しています。】

家族の高齢化などの理由で通院や生活上の困りごとに対し、麦の里仲間の通院支援、生活支援（行政手続き・ペットの通院・火葬等）を実施。

【定期通院支援者が増加していますが、依頼のあった件はすべて対応しました。】

近隣住民との交流。地域行事への貢献。

【地域の廃品回収を実施。】

七色の麦多目的ホールを活用した地域貢献の実施（講演会等）

【行えませんでした。】

4、人材育成及び確保研修への参加、資格取得の支援を実施します。

- ・虐待防止・身体拘束適正化委員会を開催し、研修プログラムを整備します。
- ・感染症・食中毒予防対策委員会を開催し、研修プログラムを整備します。
- ・書籍等配布研修の効果測定を行います。
- ・資格取得に向け、外部研修への参加支援を実施します。

【各種委員会で検討し、概ね実施しました。感染症・食中毒予防対策について実施できるよう委員会の活性化を図る必要があります。】事業拡大のため前倒しで職員採用を進めます。

【正・準職員3名採用、パートからの準職員転用1名、パート職員2名、パート事務職員1名を採用しました。休職者1名、2025年3月末正職員1名退職もあり、新事業の最低限必要な加算取得に必要な人員が不足しています。麦の里は前年実績、第2麦の里は定員の9割利用実績で人員計算しなくてはならず、半年後の見直しまでは不足状態となります。】

社会福祉法人麦 2025年度法人本部事業計画

1、基本理念

「夢はでっかく、歩みは一步步」

どんなに重い障害があっても、一人の人間として生き生きと活動できる場所を目指します。「育ち合い、支え合いを大切にしたい、真に人間らしい営み」をめざして、彼らを取り巻く家族、そして職員たちが一緒になって、地域の人たちの理解を得ながら、ゆっくりと活動を展開していきましょう。

沿革

1993年「どんなに重い障害があっても地域で生活したい」という思いのもと、麦の里の活動は始まりました。

既存の施設からも断られるような、重い知的障害者や重複障害者を受け入れながら活動を続けています。障害を持ちながら前向きに頑張っている人たちを、共に生き、共に成長する「仲間」として、排除せず、彼らと共に麦の里は成長してきました。

1991年 4月 民家で活動開始

1993年 3月 障害者とともに歩む麦の会設立

1994年 5月 旧上品野小学校で作業開始

1995年11月 共同作業所麦の里開所

2003年 7月 社会福祉法人麦設立

2004年 9月 身体障害者授産施設・通所療護施設「麦の里」開所

2009年 2月 グループホーム建設予定地取得

2011年12月 生活介護・就労継続支援B型多機能事業所へ移行

2013年 2月 グループホーム用中古住宅取得（品野町1丁目・第2ホーム）

2015年 4月 グループホーム「七色の麦」開所

2019年 5月 グループホーム「七色の麦」の3番目のホームとして
「青色の麦」開所

2021年11月 第2麦の里（仮称）用地取得

2025年 7月 第2麦の里開所

2、運営方針

私たちは社会的使命と社会的責任を認識し健全な事業運営を行います。

私たちは公正公平を原則とし、「相談」と「話し合い」を基本に、民主的な事業運営を展開します。

私たちは、様々な障害を抱えた利用者を、「共に、同じ地域社会の中で生活していく人間」あるいは「共に、仕事を分かち合いながら働く人間」として認め、その存在を「自分と等しく社会の一員である」と認めて接していくために「なかま」と呼びます。4）私たちはなか

まの安全と安心を守るとともに、障害者の自立支援となかま本位の精神を尊重し、誠実な施設運営を展開します。

私たちは、なかまはもちろんのこと、職員その他すべての関係者の人権を尊重します。

そして、発達保障の立場に立ち、一人ひとりの「主体性」を尊重しながら、地域福祉の健全な発展に貢献します。

情報マネジメントを基本にして、運営面のすべてにおいて情報公開を原則とした透明性のある事業運営を行います。

3、法人運営

1) 理事会・評議員会

理事会 2024 年 5 月 22 日 2024 年度事業報告案
2024 年度決算案

2025 年度補正予算案監事監査報告理事長業務報告

評議員会 2024 年 6 月 19 日 2024 年度事業報告
2024 年度決算

2025 年度補正予算監事監査報告 理事会 2024 年 10 月 日
予算執行状況補正予算案

評議員会 2024 年 10 月 日 予算執行状況補正予算
理事会 2025 年 3 月 日 予算執行状況補正予算案

2026 年度事業計画案

2026 年度予算案 評議員会 2025 年 3 月 日 予算執行状況補
正予算

2026 年度事業計画

2026 年度予算

2) 監事監査

2026 年 5 月初旬～中旬にかけて行います。

4、事業計画

短期計画（1 年～2 年）

2026 年までに第 4 ホームを建設します。

麦の里・七色の麦の防災グッズは、必要な整備を進めます。

2025 年 10Windows10 サポート終了に伴いパソコン更新計画を策定。2023 年から 3 年計画でパソコンを更新する計画。

麦の里に非常電源設備設置します。

第 4 のホーム建設に向け土地取得等計画を進めます。

中期計画（3 年～5 年）

麦の里大規模改修に向けた点検及び改修の実施計画作成、実施。

長期計画（5年以上）グループホーム事業の拡充生活介護事業の拡充

麦の里大規模改修の本格実施

事業計画の繰り上げ実施緊急を要する場合は、各事業計画について繰り上げ実施する場合がある。

国の政策や経済的な状況等により、各事業計画の繰り上げ、繰り下げを行うことがある。

地域公益活動福祉有償運送事業の実施。

麦の里仲間の給食費軽減措置の継続

家族の高齢化などの理由で通院や生活上の困りごとに対し、麦の里仲間の通院支援、生活支援（行政手続き・ペットの通院・火葬等）を実施。

近隣住民との交流。地域行事への貢献。

七色の麦多目的ホールを活用した地域貢献の実施（講演会等）

人材育成及び確保研修への参加、資格取得の支援を実施します。

- ・虐待防止・身体拘束適正化委員会を開催し、研修プログラムを整備します。
- ・感染症・食中毒予防対策委員会を開催し、研修プログラムを整備します。
- ・書籍等配布研修の効果測定を行います。
- ・資格取得に向け、外部研修への参加支援を実施します。

事業拡大のため前倒しで職員採用を進めます。

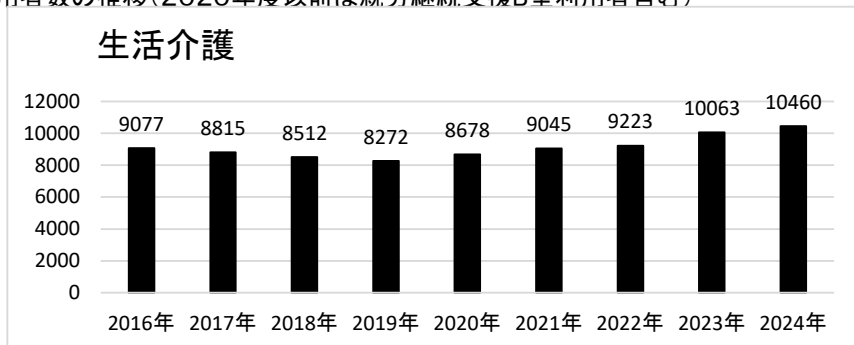
2024年度事業報告(利用実績等)

1、麦の里 利用契約者の状況

(内3名は利用実績なし)

2025.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市 中核市	男								
	女			1					1
その他 県内市町村	男	3	1	10	7	4		1	26
	女		2	2	4	4		1	13
愛知県外	男		2						2
	女	1	2						3
合計	男	3	3	10	7	4		1	28
	女	1	4	3	4	4		1	17

年間利用者数の推移(2020年度以前は就労継続支援B型利用者含む)



2、七色の麦 利用者の状況

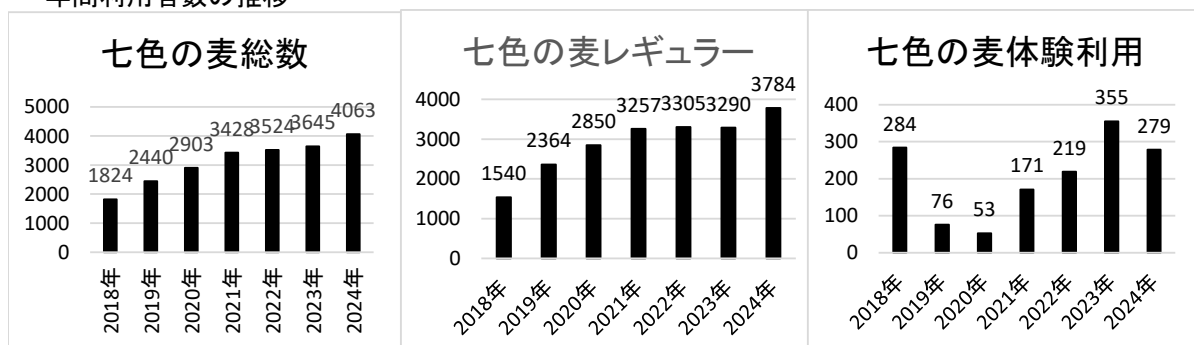
入所メンバー

2025.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市 中核市	男								
	女			1					1
その他 県内市町村	男			3	5			1	9
	女			1	2	1			4
愛知県外	男								
	女								
合計	男			3	5			1	9
	女			2	2	1			5

体験入所メンバー

2025.3.31現在		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
名古屋市 中核市	男								
	女								
その他 県内市町村	男			5	1	2			8
	女		1	2	1				4
愛知県外	男		2						2
	女								
合計	男		2	5	1	2			10
	女		1	2	1				4

年間利用者数の推移



3、生活介護表の里

① 利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開所日数
開所日数	23	23	22	24	23	21	24	22	23	22	20	22	269	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
在籍利用者数	48	48	47	46	46	46	46	46	46	46	46	45	46.3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R6報酬改定方式
延利用者数	902	914	886	943	845	836	961	883	907	847	717	819	10460	7760
利用率(%)	98.0	99.3	100.7	98.2	91.8	99.5	100.1	100.3	98.6	96.3	89.6	93.1	97.1	72.1%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
欠席加算数	33	26	18	21	48	11	9	14	19	16	53	19	287

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院者数	3	1	1	1	2	1	1	1			1	2	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延長支援者数	1	1	1	2	2	2	1	2	2		1	2	17

2025.3.31現在	瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	他	合計
利用者の住所地	男	21	2	3	1	3	30
	女	9	2	1		2	18
内新規利用者数							
内退所利用者数							

	期日	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
障害支援区分	4/1現在			1	2	6	10	29	48
	3/31現在			1	2	6	9	27	45

2025.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
年齢構成	男	3	3	10	7	4	1	28
	女	1	4	3	4	4	1	17

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
送迎利用者数	48	48	47	46	46	46	46	46	46	46	46	45	46.3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
送迎利用延数	1640	1653	1609	1714	1490	1522	1753	1607	1662	1550	1250	1470	18920

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
給食数	840	835	831	891	777	784	883	829	862	782	655	770	9739

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
入浴利用者数	16	16	16	15	18	15	15	16	17	17	16	17	16.2
加算対象利用者数	10	10	10	11	13	11	11	11	13	13	12	13	11.5

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入浴利用延数	100	100	91	102	95	95	104	103	99	105	82	91	1167
加算対象利用延数	52	54	54	64	59	60	64	66	62	64	52	56	707

	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数
医療的ケア	吸引(口腔内)	4	酸素吸入	1	服薬管理	16
	吸引(鼻腔)	2	モニター管理		創傷処置	5
	吸引(気管切開)		じょくそうの処置	3		
	経鼻経管栄養		疼痛管理			
	胃ろう栄養管理	4	インスリン管理	1		
	点滴		導尿	1		
	ネブライザー	2	浣腸			
	気管切開のケア		摘便			

	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数	ケアの種類	人数
理学療法 相談及び対処	ストレッチ指導	8	筋緊張の緩和等	9		
	補装具等の調整	16	自助具の開発等	6		

②職員の配置状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
配置職員数	51	52	54	53	53	53	53	53	53	53	53	55	53.0

常勤換算数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
管理者	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
サービス管理責任者	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9
生活支援員	21.1	21.4	24.0	23.7	22.7	21.4	21.3	22.1	22.6	22.8	23.5	25.2	22.7
医師	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
看護師	1.3	1.3	1.3	1.5	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	1.3	1.3
理学療法士	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
作業療法士	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
直接処遇職員	22.6	22.9	25.6	25.4	24.3	22.9	22.8	23.8	24.1	24.2	25.0	26.7	24.2
事務員	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7

常勤換算数は、0.1未満は0.1と表しています。その他は、小数点第2位以下切り下げしています。
直接処遇職員数は、国の定めにより算出した数であるため、生活支援員等の合計数と異なります

4、共同生活援助七色の表

①利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計開所日数
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	30	364

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均利用者数
在籍利用者数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14.0
体験利用者数	11	12	12	10	11	12	12	13	12	12	6	10	11.1

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用者数	322	339	302	343	317	309	342	319	318	302	253	318	3784
体験延利用者数	24	26	25	22	22	24	24	27	24	25	16	20	279
合計延べ利用者数	346	365	327	365	339	333	366	346	342	327	269	338	4063
利用率(%)	76.9	78.5	72.7	78.5	72.9	74.0	78.7	76.9	73.5	70.3	64.0	75.1	74.4

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重度支援対象者	19	21	21	21	21	21	21	21	21	22	21	21
内強度行動障害	7	8	8	8	8	8	8	8	8	9	8	8

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医療連携者数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168

2025.3.31現在	瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	東郷町	合計
利用者の住所地	男	7		1	1		9
	女	2		1		1	5
新規利用者数	1						1
退所利用者数	1						1

2025.3.31現在	瀬戸市	春日井市	尾張旭市	小牧市	名古屋市	その他	合計
体験利用者の住所地	男	6	1	1		2	10
	女	2	2				4

※今年度体験利用者

2025.3.31現在	期日	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
障害支援区分	4/1現在					3	2	9	14
	3/31現在					3	2	9	14
体験・支援区分	人数					1	4	9	14

2025.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
年齢構成	男		3	5			1	9
	女		2	2	1			5
2025.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
体験利用者	男	2	5	1	2			10
年齢構成	女	1	2	1				4

②職員の配置状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
配置職員数	28	28	30	29	28	29	29	30	30	30	31	32	29.5

常勤換算数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
管理者	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.5	0.5	0.9
サービス管理責任者	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
生活支援員	5.5	5.8	5.7	5.4	6.0	5.8	5.5	5.2	5.2	4.8	4.9	4.4	5.4
世話人	3.1	3.3	3.4	3.1	2.6	2.9	2.9	2.8	3.0	3.2	3.6	3.4	3.1
夜間支援員	2.0	2.2	1.9	1.7	2.1	2.1	2.0	2.0	2.1	2.1	2.2	2.0	2.0

常勤換算数は、0.1未満は0.1と表しています。その他は、小数点第2位以下四捨五入しています。

5、その他の職員配置

実数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
運転手	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0
ハウスキーパー	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0

6、職員総数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均配置職員数
職員実数	59	60	61	60	59	58	58	60	59	59	59	61	59.4
内嘱託医	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
内派遣職員数(シルバー含む)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
休職職員数	3	2	1	1	1		1	2	1	1	1	1	
月全休職員				1	1	1							
内月途中採用職員数		1	1					2				2	
内月退職職員数			1	1	1		1					1	
給与支払い職員数	53	55	57	55	54	54	54	54	55	55	55	57	54.8

2025.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
正職年齢構成	男			4	3	8	1	16
	女		2	2	6	2	2	14

2025.3.31現在	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
パート年齢構成	男			2		4	4	10
	女		1	2	3	5	4	18

※月全休職員含む

2025.3.31現在	1年未満	3年未満	5年未満	7年未満	9年未満	9年以上	合計
正職在職年数	男	2	6	2	1	1	16
	女	1	5	1	1	6	14

* 麦の里パートから正職員採用した場合、期間は継続で計算

2025.3.31現在	1年未満	3年未満	5年未満	7年未満	9年未満	9年以上	合計
パート在職年数	男	1	1		2	6	10
	女	2	3	3		1	18

※月全休職員含む

7、職員 各種資格取得の状況

	正職員	パート		正職員	パート	派遣
社会福祉士	2		サービス管理責任者	7		
介護福祉士	8	1	相談支援専門員	4		
精神保健福祉士			理学療法士		1	
ヘルパー1級	1		作業療法士		1	
ヘルパー2級	2	6	看護師・准看護師	1	1	
介護職員初任者研修	3	1	視覚障害者移動介護従事者養成研修	1	1	
強度行動障害・基礎	17	2	同行援護従事者研修			
強度行動障害・実践	16	2	調理師	1	1	
管理栄養士		1	栄養士		1	

1 仲間全体

《2024年度(R6)事業計画と総括》

今年度、特別支援学校を卒業した新卒の仲間が4名、通所されました。それぞれに重度重複の障害を持っており、個性的で将来が楽しみな仲間たちです。

一方で、麦の里で20年以上通ってきている身障重複の仲間が1名、体調急変で入院。医療的ケアが必要になり、家庭でのケアが難しいため、医療施設に入所となりました。

また、知的障害の仲間たちが2名、それぞれ家庭の事情で、別の施設へ移動されました。この2名の仲間は自閉的傾向が強く、集団生活が苦手な仲間でしたが、麦の里の活動にはとても馴染んでくれ、作業にも一生懸命取り組んでくれていました。この3名の仲間たちは、いずれも突然の家庭の事情で来られなくなったということで、麦の里としては、それぞれの生活が安定するように、見守りながら見送る形を取りました（いつでも戻って来られるように）。

【1】 仲間たちの活動をより充実したものにしていく

仲間たち個々のケアをより良いものにしていく

[短期目標]

- ① 個別支援計画で仲間の支援の方向性を職員間で共有していき、仲間たちとの活動に活かしていく。

現状の課題

現在、個別支援計画の共有が不十分であり、多くの職員が計画の内容を把握できていないため、支援活動に効果的に活かせていません。個別支援計画が職員間で共有される機会がほとんどなく、計画の内容を見たことがない職員も多数存在します。一部の職員のみが計画を把握している状況です。

また、職員間の連携不足、支援の方向性が統一されておらず、グループ間の情報交換が少ない状況です。1～3年目の職員が多い中で、職員間で話し合いが足りていないため、麦の里の基本方針である「本人主体。仲間1人1人が主人公となるような取り組み」を再度、職員間で共有していく必要があります。職員数が増えている中で、基本方針と個別支援計画の共有をしていくためにも、グループごとの会議の必要性が求められています。

良い点

緊急の支援に対応するために必要な情報を職員間でその都度共有していることです。これにより、緊急時に迅速かつ適切な対応が可能となっています。また、各グループでの夕方の振り返りは情報共有の一環として機能しており、職員間でのコミュニケーションが一定程度保たれています。

改善提案

1. 定期的な共有会議の開催

- ・月に1回の会議を設け、個別支援計画と基本方針を職員全員で共有する場を作ります。
- ・グループ会議を開催して、支援の方向性の統一を図るとともに職員間で共有してしていきます。

2. 計画の見直しと可視化

- ・個別支援計画を分かりやすく整理し、職員全員が目を通せるようにします。
- ・具体的な計画内容や更新情報を定期的に共有し、方向性を統一します。

3. 情報共有と連携の強化

- ・各グループの夕方の振り返りを継続し、他のグループとの情報共有も行います。
- ・緊急の支援は迅速に共有し、職員間での連携を強化していきます。
- ・障害の特性や発達段階の理解を深めるための研修を定期的に行い、職員の意識向上を図っていきます。

4. ミーティングノートの活用

- ・ミーティングノートを活用して、仲間の体調や変化、申し送り事項を把握していきます。
- ・職員同士の情報交換や意見交換を促進する場を設けます。
- ・送迎やホームでのすれ違いを減らし、情報共有を円滑に進めていきます。

② 仲間たちと気軽に話し合える関係づくりをしていく。

現状の課題

1～3年目の職員が多い中で、作業で関わりのないグループとの関係作りができておらず、職員だけで話す場面が多く、仲間が置いていけぼりになっていることが多い場面もあります。職員が力をつけていくためにも「仲間とコミュニケーションをとって関係を作っていく」ということを職員間で意識していく必要があります。

問題が発生した際には注意をして、直接仲間と話すことが重要ですが、時間をかけて関係を築くことが難しいです。日頃のコミュニケーションが取れず、話し合える関係を築けない現状があります。

また、仲間との関係作りの時間が欲しいと感じていますが、日頃の業務の多さやマンツーマン対応の職員が限られていることからマンツーマン対応を全員ができるようになる関係性が築いていけるのではないかという意見もあり、検討していく必要があります。

良い点

作業場面以外でも積極的に仲間と話す努力をしており、コミュニケーションを増やすことを目指しています。また、お昼休みを活用して、日々の活動の中で仲間と声をかけるようにしており、作業で関わりのないグループとの関係作りにも努めています。すべての仲間との関係作りは難しいですが、一人ずつでも関係を作っていくことの重要性を理解し、焦らず時間をかけて関係を築く努力をしています。

改善提案

1. 対話の時間を計画的に増やす

- ・給食の時間や作業までの空いた時間を活用して、職員と仲間の交流を促進します。これにより、関わりのないグループとの関係作りや日々の活動の中での対話が増え、コミュニケーションが円滑に進むことが期待されます。

2. 直接対話を促進する

- ・問題が発生した際には速やかに話し合いを行うように努めていきます。さらに、焦らず時間をかけて関係を築くために、送迎時間や昼食後、帰りの会前の空いた時間を有効活用します。個々の仲間との関係を深めるために、小グループでの対話や個別の時間を設け、一人ずつ関係を作ることを目指します。

3. 業務の効率化

- ・業務の効率化や時間・職員体制等の見直しを行い、業務負担を軽減することで、コミュニケーションのための時間と余裕を作り出します。定期的なフィードバックと業務の見直しを行い、改善策を取り入れることで、職員がより多くの時間を仲間との関係作りに費やせるようにします。

4. 職員同士の情報交換の促進

・職員同士の情報交換を促進し、仲間が職員に対して話しやすい環境を整えます。ミーティングノートを活用して、仲間の体調や変化、申し送り事項を把握しやすくし、職員同士の意見交換を促進する場を設けます。

③ PT,OT から学んだことをしっかりと記録をとって申し送りしていく。

現状の課題

継続して申し送りを行っていますが、全体に伝わるのは難しい状況です。気になる人が記録を見たり話したりしていますが、申し送りが十分に共有されていないと感じる職員もいます。申し送りされたことは口頭やノートで共有されていますが、関わる機会があまりないため、職員間での申し送りが難しいと感じる人もいます。

姿勢など、本人がどのようにした作業や活動がしやすいかについて、A、B、療護に関わらず分け隔てなく見ていく時間が必要です。

良い点

PT や OT から学んだ知識が身につく、それを活かして良い時間を過ごしている職員がいます。これにより、支援の質が向上し、次の活動にも役立てられています。日頃の動作や身体の変化を意識するようになった職員もいます。これによって、仲間への支援がより適切かつ効果的になっています。

改善提案

1. 申し送りノートの継続的な活用

・申し送りノートを職員間で回し、学んだことを記録して共有することが重要です。記録を整理し、保管場所を決めて定期的に情報を更新することで、全体に伝わりやすくします。

2. 定期的なミーティングの開催

・口頭での共有だけでなく、定期的にミーティングを開催し、学んだことを共有する場を設ける必要があります。

3. 職員間の連携強化

・職員間の連携を強化し、関わる機会を増やすことで、申し送りが円滑に進むようにします。

5. PT や OT からの学びの共有

- ・ PT や OT と学んだことを他の職員にも伝達するための工夫が必要です。ファイルはありますが、活かせていないため、例えば、ミーティングノートを活用して学んだ内容をまとめて共有する、または研修の報告会を開催して全員で共有する機会を設けます。

④ 例会活動や役員会活動、そしてレクリエーション活動の再開を実現させてお楽しみ活動を充実させていく

現状の課題

レクリエーション活動が再開できました。今後も継続して実現させていきたいという声が多くあります。しかし、交通費のルールが決まっていな中で、新しい職員にはレクの活動の説明が十分ではなく、準備不足と感じる意見もありました。

例会活動は年間プログラムと担当を決めて充実した活動になっていますが、特定の仲間たちの意見が通りやすくなっています。

療護は水族館に出かけたものの、次年度は個別レクリエーションを実現させたいという意見があります。職員と仲間の意欲ややりがいにもつながる次のリクエストもありますが、全体でいうと、現状の職員の負担軽減も考慮する必要があります。

役員会では、普段の活動に比べ、少人数で、ゆったりとしており職員も仲間も楽しそうに過ごせています。

良い点

担当職員がしっかりと準備をしてくれたおかげで、皆が楽しむことができました。また、グループごとに希望を聞いて、要望に沿った例会やレクリエーションが行われており、気分転換としてとても良い機会となっています。

以前は一人で考え込んでいた仲間と、レクリエーション活動を通じて関係ができて頼ってくれるようになり、仕事以外での仲間の様子がわかる良い機会となりました。これにより、職員と仲間の意欲ややりがいも高まり、より良い関係が築かれています。

提案

1. 交通費のルール整備と事前説明

- ・ 交通費のルールを明確にし、新しい職員に対してはレクリエーション活動の説明を事前に行い、準備不足を防ぐようにします。

2. 公平な意見尊重

- ・例会活動では、家族と活動している仲間だけでなく、車いす等でできることが限られている仲間の意見を尊重するようにします。

3. 個別レクリエーションの実現

- ・療護の仲間に対して個別レクリエーションを実現させ、個々のニーズに合った活動を提供します。

4. 職員の負担軽減

- ・職員の負担を軽減するために、活動の計画や準備を効率的に行い、職務の配分を見直します。

⑤ バザーや募金活動を通じて麦の里を地域の方との交流・

麦の里を知ってもらう機会として積極的に参加をする

現状の課題

コロナが5類となり、様々なバザーに参加する機会が増えました。今後も積極的に参加していきたいと考えています。参加するだけでなく、主催者側になることも検討したいという意見もあります。(募金活動の継続についても議論が必要で、増やすことも検討されるべきです。

地域の方々に対する理解と感謝の意を表すことも大事であり、定期的にやすらぎ会館での販売を楽しみにしてくださっているお客さんもいます。また、仲間がバザーに関わることで仲間の仕事のやりがいに繋がります。仲間が楽しそうに活動している姿を見てもらうことは、麦の里の良い印象に繋がります。

バザーに出席する職員の偏りをなくすための努力が続けられており、公平感が出てきました。募金活動も例年通り行うことができ、多くの人と関わることができましたが、活動に参加する仲間が限定されていることも課題です。

良い点

バザーが再開し、出店できたことで多くの機会が生まれました。

改善提案

1. 活動の多様化

- ・バザーや募金活動に参加できる職員を増やし、一部の職員に負担がかからないよう、担当予定表を事前に作ります。
- ・交通費ルールを整備し、新職員への事前説明を徹底します。
- ・車いす利用者を含む全ての仲間の意見を公平に取り入れていきます。
- ・希望を募り、感染対策を徹底して実施していきます。

2. 地域交流の促進

- ・バザーや募金活動に参加するだけでなく、主催者側としての活動も検討していきます。

⑥仲間たちも避難訓練に慣れてきたため、様々な想定をして、いざ災害があったときに対応できるようにしていく

現状の課題

災害が起きる前に、避難経路を確保することが重要であり、食堂での車いす置き場やホールのスチールラック、窓を塞いでいる物の撤去を検討する必要があります。外活動時の市内の避難場所の確認や出勤時（朝）の訓練も重要です。

同じ訓練を繰り返すとパターン化してしまうため、様々な想定を取り入れることが必要です。回数を重ねることで、臨機応変に対応できるようになってきていますが、水害なども含めた訓練を定期的に行い、全体の防災意識を高めることが必要です。消火器やAEDの使用訓練、外作業時や送迎時、入浴中など、様々なシチュエーションでの訓練が求められます。職員間での話し合いの機会を設け、マニュアルの整備も重要です。

良い点

仲間たちは避難訓練に慣れてきたため、予告せずに訓練を行った際にも大きなトラブルなく避難ができました。さらに、職員間で訓練後に問題点を出し合い、改善を進める取り組みが行われています。訓練を繰り返し行うことで、臨機応変に対応できる力が養われており、避難訓練に対する全体の意識が高まることで、防災意識の向上につながっています。

改善提案

1. 訓練内容の多様化

- ・水害や、その他、異なる訓練内容を取り入れパターン化を防いでいきます。
- ・訓練後に問題点を出し合い、継続的に改善策を講じます。
- ・計画を知らない前提での訓練をしていきます。

2. 避難経路の確保と整備

- ・車いす置き場、ホールのスチールラック、窓を塞いでいる物の撤去をします。
- ・外活動時の市内避難場所の確認と出勤時の訓練も実施していきます。

3. 各種設備の使用訓練

- ・消火器、AED の使用訓練を定期的に実施します。
- ・外作業、送迎、入浴中など、様々な状況での訓練を行います。

4. 職員間の情報共有とマニュアル整備

- ・職員間での話し合いの機会を設け、避難訓練のマニュアルを整備していきます。

[長期目標]

①仲間たちと日中活動や生活について、どうしていきたいか話し合っていく

現状の課題

仲間たちや親御さんの高齢化に伴い、個別支援計画の重要性が増している一方で、気持ちを引き出すのが難しい仲間たちも多いです。毎日作業に追われる職員にはディスカッションの時間がなく、仲間に対して一方的な発信となることも多いです。

親なき後の自立支援についての話し合いや、現状の資源に加えて他機関・サービスとの連携も求められています。親の願いや日常の生活や麦での過ごし方について、定期的な話し合いの場が必要です。

良い点

仲間の会が開催され、仲間同士が交流し意見を出し合う場が設けられました。これにより、日常の生活や麦での過ごし方について考える機会が増え、仲間の自立支援に向けた取り組みとしても進んでいます。

改善提案

1. 個別支援計画の強化

- ・アセスメントを基に個別支援計画を反映し、職員からの一方的な発信を避けます。

2. 親なき後の自立支援

- ・親なき後についての話し合いを定期的に行い、自立できる支援を強化します。

3. 他機関との連携

- ・他機関や他サービスを利用することで、選択肢を増やし、より良いサービスを提供します。

4. 定期的な話し合いの場の確保

- ・月に一度、または3か月に一度、定期的に話し合いの場を設けます。

5. 具体的なテーマの設定

- ・突然のテーマではなく、事前に具体的なテーマを設定し、じっくり考える時間を確保します。

6. 親の願いや仲間の希望の共有

- ・普段の中で親の願いや仲間の希望を聞く機会を増やし、それを共有します。

《2025年度(R7)事業計画》

【1】 仲間たちの活動をより充実したものにしていく
仲間たち個々のケアをより良いものにしていく

[短期目標]

①第二麦の里の開所に向けて、中身を詰めていく

- ・ 第二麦の里開所に向けて、仲間たちにとって「作業の大切さ」を職員間で共有していく
- ・ 作業を「どの仲間と」「どのように分けて」いくか話し合っていく

②個別支援計画・基本方針の共有と確認をしていく

- ・ 個別支援計画の共有と確認（仲間たちのケアに対する方針の共有のために）を職員皆がいつでも手にできる様に前年度、今年度ごとでファイリングして棚にしまう。夕方の振り返りやグループ会議で一人の仲間の名前をあげて、順番に数名の仲間について深める。
- ・ 麦の里の基本方針である「本人主体。仲間1人1人が主人公となる取り組み」を職員1人1人が意識できるようにグループ会議等で確認しあい、理解を深めていく
- ・ グループ会議の時間は16:30-17:30の1時間で、毎週月水がAグループ、火木がBグループ、金に療護グループ会議を開催する。いずれはパート職員も含めて行っていきたい。

③避難訓練の定期的な実施をしていく

- ・ 避難訓練の実施。災害時の対応力を向上させ、仲間の安全を守るために、定期的且つ、様々な想定で避難訓練を実施し、職員と利用者の対応力を高める。
- ・ 訓練回数を増やし、災害に備えていく

④専門職（看護師・PT・OT）との連携を強化していく

- ・ 今後、医療的ケアの必要な仲間が増えていくことが予想されます。また、仲間たちのレベル低下や病気の進行・家族介護の限界からくる通院補助などもあり、看護師との連携を強化する。医療的ケアの質を向上、ケアの質の向上のために定期的な看護師とのミーティングを設定し、情報共有を行う。
- ・ PT、OT をもっと活用できるように、事前に相談したいことをまとめておく。専門家の知識を活用し、支援の質を向上させるために PT、OT との定期的な相談会を設定する。

⑤レクリエーションと行事を計画的に行う

- ・ レクリエーションと行事の分散実施、秋に集中するレクリエーションと行事を年間で通じて分散させ、職員と利用者の負担を軽減するため、年間のレクリエーション計画を立て、適切な時期に分散して実施する。

⑥365 日の支援体制を整備する

- ・ 実現に向けてシフト調整を検討、利用者に安定した支援を提供するために、365 日対応のシフトを組み、職員の負担を分散させる。
- ・ 365 日対応になって、考え続けた 1 年だった。継続的な支援体制を確立し、利用者の生活を支えるために、365 日対応のシフトを見直し、改善点を共有する。
- ・ 土日祝日の日中の対応をどうしていくのか、昼間の活動の中身とマンパワーの確保も急速な課題である。

20 年間麦の里に通っていた仲間が、家族の事情で入所施設に入ることになり、麦の里を退所した。そういった方が、慣れた場所に通い続けるようにするためにも、365 日の生活を支えられるようにする。

②新しい作業内容と仲間たちの日々の充実を目指す

- ・ 新しい作業内容を増やし、仲間たちの活動を充実したものにできるよう努める。その中で、仲間たちの「仕事に取り組む気持ち」や「明日も麦の里

に行きたい」と思える活力となるようにしていきたい。自己実現を支援するため新しい作業内容を導入し、仲間たちが挑戦できる環境を整える。

[長期目標]

①会議と振り返りの見直しをしていく

- ・各グループの振り返りをパート職員も含めて行う、情報共有と連携を強化するために、パート職員も参加できる時間帯に振り返りの会議を設定する。
- ・タ方の振り返りで、完全にグループ間で話す。日々の活動を振り返り、情報共有を促進するために、各グループの代表が振り返りの内容を共有し、全体でのディスカッションを行う。

②職員の休憩とコミュニケーション

- ・職員の休憩時間の確保、職員のリフレッシュと健康を守り、質の高い支援を提供するために、30分交代で職員が休憩に入れるシフトを組む。皆が皆の食事介助ができるようになれば、お互いにフォローができる環境になる。また、その間に30分交代で職員が休憩に入れる環境を整えたい。そうすれば自然と職員全員がリフレッシュでき、仲間との会話が増えるのではないかな。

③親亡き後の支援のために話し合いをしていく

- ・親亡き後の生活支援について仲間や親御さんと話し合う。仲間の将来を見据えた支援を提供するため、親亡き後の生活支援について定期的な話し合いを設定する。

2 A グループ

《2024年度(R6)事業計画と総括》

【1】日中活動の中身を充実させよう

仲間たちが作業にも日課にも自主的に取り組めるように、日々の報告会での申し送りを大切にする。

〔短期目標〕

①作業内容を丁寧に確認し目標を立てる

朝の会で仲間たちと作業の中を確認し、全体で共有できるようにしていきたい

現状の課題

作業の目標を立てても仲間たちにはわかりにくいこともあり、作業に対する意欲には繋がっていません。各作業においてその日の内容を再度確認することで、仲間たちに「今日はこれをやる」という意識を持ってもらうことから始めていく必要があります。

良い点

仲間たちの中には、その日の作業内容や予定を意識できている仲間もいて、意欲的に取り組めている仲間もいます。

改善提案

1. 作業に対する意識づけ

- ・各作業において作業前に「作業内容の確認」をしていき、仲間たちの意識の向上を図ります。

2. 内職の確認と話し合い

- ・新しい内職について職員間で確認し、仲間の適性に合った工程を話し合います。

- ②日々の振り返りの時間を大切に、お互いの行った作業の内容、進捗状況を報告し合い、把握する
作業ごとで作業の振り返りをしていくことで、仲間たちの取り組みを明日につなげていきたい

現状の課題

日々の振り返りを作業ごとで行ってはいますが、仲間たちにとって、振り返りが次に繋がっていないことも現状です。まずは、仲間たちがそれぞれ作業を通じて「達成感をもつ」ことが作業に対する意欲に繋がります。そこを課題として捉えています。

良い点

ある仲間は、作業から納品まで取り組むことで、作業の流れを把握するとともに、本人の達成感にも繋がりました。

改善提案

1. 達成感の共有

- ・仲間たちが「作業の中で達成感をもつ」ことに重きをおき、その繰り返しの中で、作業に対する意欲に繋がると捉えています。達成感を共有する機会として各作業での振り返りをしていきます。

- ③司会、作業や日課を仲間たちで自主的に行えるようにしていく、様々な場面（朝の会など）仲間たちが主体となるように工夫する

現状の課題

職員が仲間たちに対して意識的に声掛けを行い、仲間たちが自主的に司会や作業確認などを行えるようになることが課題となっています。少しずつですが、仲間たちが自分たちの役割だということを認識しつつあります。

良い点

- ・司会が不在の際に「代わりに自分がやろうか」と名乗り出る仲間がでてきています。これにより、仲間たちの自主性が徐々に育ってきていることが伺えます。仲間たちの中には、朝の会で週間の予定などを積極的に確認し合う姿もあり、仲間たちが主体的に取り組む場面が見られました。

1. 仲間たちの主体性の尊重

- ・昨年度・今年度と仲間たちが主体的となる場面が朝の会で見られるので、継続し、そのような機会を増やしていきます。

2. 自主的な司会の名乗り出

- ・司会が不在の際に代わりにやると名乗り出る仲間を奨励し、他の仲間も積極的に役割を引き受けるようにします。これにより、自主性と責任感が育まれます。

④例会に参加できない仲間たちを中心に、平日のレクリエーションの取り組みを話し合っていく 来年度の実現に向けて、再度話し合い行い中身を詰めていく

現状の課題

平日のレクリエーション活動が実現しました。来年度も継続して実現させることが目標です。仲間たちの日々のやりがいにもつながるため、今後は「〇〇がやりたい」という希望だけでなく、日程や計画を仲間たち自身が立てられるようにすることが求められています。平日のレクリエーション活動は、ぜひとも続けていきたいと考えられています。

良い点

平日のレクリエーション活動が実現し、仲間たちの日々のやりがいにつながっています。

改善提案

1. 仲間の希望を反映した計画作成

- ・レクリエーション活動の計画を立てる際に、仲間たちの希望を積極的に取り入れ、参加意欲を高めます。

2. 日程と計画の自主作成

- ・仲間たち自身がレクリエーションの日程や計画を立てる機会を提供し、主体的な取り組みを促進します。

3. 情報共有と意見交換

- ・定期的に話し合いの場を設け、仲間たちが意見を出し合い、次のレクリエーション活動についての情報を共有します。

4. 参加機会の拡大

- ・参加できなかった仲間も含め、平日に参加できるレクリエーション活動の機会を増やし、多くの仲間が参加できるようにします。

5. 役割分担の明確化

- ・仲間たちに役割を割り当て、それぞれが計画や準備に参加することで、共同作業の意識を高めます。

6. フィードバックの活用

- ・活動後に振り返り、次のレクリエーション活動の改善点を話し合いに反映させます。

〔長期目標〕

- ①仲間たち自身が主導で話し合いを持てるようにしていきたい 仲間たちが自身でグループをまとめるないしは、引っ張っていけるようにしていきたい

→まずは、仲間たちが自分のことをやりたいことや自分がどうなりたい・どうしたいか聞いていく。その上で、グループとしてどうしていきたいかにつなげていきたい。そのためにも個人面談・仲間の会の頻度を増やしていく。

- ・仲間の会では意見を言いやすい環境整備をしていく。

現状の課題

自分自身がどうなりたい・どうしたいかを考える場面が少なく、第二麦の里についての話があったものの、具体的な意見を出す機会がありませんでした。自分たちで考えることも大事ですが、職員も一緒に考えていく必要があります。年度始めには仲間の会が多く開かれましたが、仲間ではなく、職員が主導になってしまう傾向があります。発言しにくい仲間も多く、個々に話を聞いた方が本音を話してくれる仲間もいるため、一人一人にあった方法で話し合いを行うことが求められています。作業に関して「やらされている」と感じる仲間もあり、自分たちのこと、自分たちの仕事として意識しない限り、仲間たちだけで主体的に話し合うことは難しいです。

良い点

年度始めには仲間の会が多く開かれ、色々なことについて話し合う機会が設けられました。これにより、仲間同士が交流し、意見を出し合う場が提供されました。

改善提案

1. 意見を言いやすい環境整備

- ・少人数のグループに分けて話し合い、意見を言いやすい環境を整備します。

2. 仲間の主体的な参加

- ・自分がどうなりたい・どうしたいかを考える場面を増やし、グループとしてどうしていきたいかを話し合います。

3. 個人面談と仲間の会の頻度増加

- ・個人面談や仲間の会の頻度を増やし、自分の意見を表明する機会を増やします。

4. 職員との共同考察

- ・職員も一緒に考え、仲間たちが主体的に行動できるようにサポートします。

5. 役割意識の向上

- ・作業に関して「やらされている」と感じる仲間に対して、自分たちのこととして意識させるように働きかけます。

6. 個別対応の強化

- ・発言しにくい仲間には個別に話を聞き、一人一人にあった方法で本音を引き出します。

《2025年度(R7)事業計画》

【1】日中活動の中身を充実させよう

仲間たちが作業にも日課にも自主的に取り組んでいく

[短期目標]

- ①作業ごとに仲間たちと作業内容を確認し、仲間たちの意欲に繋げる。
- ②作業ごとに、達成感を共有していくことを大事にする。
- ③司会、作業や日課を仲間たちで自主的に行えるようにしていく、様々な場面（朝の会など）仲間たちが主体となるように工夫する。
- ④例会に参加できない仲間たちを中心に、平日のレクリエーションの取り組みを話し合う。

[長期目標]

- ①仲間たち自身が主導で話し合いを持てるようにしていきたい 仲間たちが自身でグループをまとめるないしは、引っ張っていけるようにしていきたい。
- まずは、仲間たちが自分のことをやりたいことや自分がどうなりたい・どうしたいか聞いていく。その上で、グループとしてどうしていきたいかにつなげていきたい。そのためにも個人面談・仲間の会の頻度を増やしていく。
- ・仲間の会では意見を言いやすい環境整備をしていく。

仲間三行総括 A グループ

TO. A

虫取りや箱の折り目付けなど色々仕事を試してみたところ出来る作業が増えました。仕事の準備、片付けはほとんど一人で任せることができます。多くの仲間と仲良くなって助けてほしい気持ちがある一方、他の仲間や職員を真似する事でトラブルになることがあるので声かけと見守りが必要です。

少しずつですが自分で感情を調整しているようすも増え、職員の声かけだけで気持ちを落ち着つけるようになってきています。

(GIAU)

TA. A

麦の里3年目です。いろいろな作業にとりくんでいます。中でも園芸、バリ納品、仕込みの米ぬかのように重い荷物を平気で運んでいます。発作があるため、見守りが必要です。姿勢が右側に傾いているのをみかけます。作業に関して手先が器用なのでいろいろ取り組んでいます。仲間と昼食後や帰る時もなかまと楽しくお話しています。報告も以前より話せるようになってきています。

(暁生)

MA. K

この1年で持病の進行がみられるようで、飲み込む際に咽ることが増え、食事の際には飲み込みやすくするためお茶を2杯用意しています。昨年同様、歩行器をついて移動していますが、少しの距離だからと使わず歩くこともあり、ふらつきがみられることもあります。上手くなりたいと思っている作業に対し、意欲があり何度も確認し習得しようとする反面、注意を受ける事に対し、手も止めず素直に聞けないこともあるため、マナーを覚えてもらうようその都度丁寧でわかりやすい声かけと見守りを行っていきたいと思います。

(池田)

KA. K

祖母の転院に伴い名古屋へ引っ越し退所。5月まで数回通所したがその間は特に変わりがなく過ごしていた。

(三好)

RY. K

今年も例年通りに仕事はゆっくりですが、仕事の進捗状況はしっかり報告してくれます。最近はお仲間の良い仲間も出来て仕事や昼休みの時間に2～3人で集まっておしゃべりをしてことが多いです。しかし、時々職員や隣の仲間との距離が近すぎるので見守りの必要があります。

以前は、仕事で何かミスがあったり間違っていたりした場合、自分1人で直すこともありましたが、最近では間違いを、ちゃんと職員に伝える事ができるようになってきました。今年は仲間の意向に沿ってAグループがレクを計画して行きましたが、本人は行けませんでした。今年度日頃の会話から本人の希望を聞き出していきたいです。

(GIAU)

SH. K

ダウン症で心臓の疾患がある為、麦の里では朝・昼食後・夕方に30分程吸入をしています。週に4日間パンの作業に入り、できる工程や作業量も増えて、楽しいと話しながらやりがいを持って取り組んでいます。

週に一度、作業にも入り積極的に取り組んでいます。以前は頑張りすぎて長い時間休む、ということもありましたが、こまめに休憩に入ってもら回数を増やし、無理のない程度に頑張ってもらっています。また、気持ちの波のある場合もある為、うまく切り替えていく声掛けもしていく必要があります。

(小林)

TO. S

昨年2月から同居人のお姉さんが亡くなったため365日グループホームを利用するようになりました。ホームに入ってから、仕事中に居眠りする事がほぼなくなり、内職を中心に様々な作業ができるようになりました。他の仲間に対してささいなことで怒ることが増え、声かけや配慮が必要です。9月から腸捻転を起こし、それ以来、腸捻転の回数が増えて、医師と話し合い相談した結果、3月に手術を行いました。毎日、排便や体調の情報を職員と看護師が共有し確認する必要があります。

(GIAU)

YA. T

仲の良いなかまとのコミュニケーションはありますが、なかなか自分からお話することはありません。自ら話せるようになることをのぞんでいます。レクについては、とても楽しみにしています。体調に関しては作業中、足をさすったりすることがたびたびみられます。トイレの時間との調整で作業時間が短いため、少しでも長く作業ができるようにしましょう。

(暁生)

TA. T

週4日の内職作業にも慣れ、仲間や職員と会話を楽しみながら作業を進めることができます。作業内容も理解しており、道具の準備や片付けも率先してやってくれます。

一方で、内職の仕上がりについて自分と他の仲間を比べる癖があるので注意していきたいと思います。普段から血圧が高めなのもあるせいか、めまいがするという訴えもあるためしっかりと話を聞いて把握していきたいです。

(池田)

KE. N

麦の里での導尿について看護師、主任、職員とで話し合いを行いました。その話し合いの結果、麦の里での導尿は一旦限定した看護師との導尿と自分で尿器にて出来る時には職員付き添いで行うとなりました。結果的に自分で尿器を当て排尿ができ、看護師にお願いしに行くことがなく生活できています。寒い季節の変わり目での尿意と気持ちの不安感から1度導尿を自宅に歩いて帰るということがありましたが、寒さに慣れその1度のみで他は落ち着きました。

現在の課題は、自分の感情のコントロールと新しい仕事へのチャレンジです。新しい仕事として「ぼかしの虫取り」に取り組めて、本人からも良い反応が見受けられました。

(北村)

HI. H

週に一日、パン作業に入っていますが、30種類ほどの成型ができます。今年度はクリーム作りにも挑戦してくれました。買い物リスト作成は在庫確認しながら意欲的に取り組んでいます。歩行が不自由のため室内は歩行器やクラッチ杖を使用しています。転倒など見守りが必要な仲間です。信頼できる支援員がみえるそうで休日は買い物など充実して過ごしています。

(松尾)

NA. MA

毎日、元気にあいさつできています。納品や報告もしっかりあいさつできています。話す内容も先を見通して何をするのかわかっています。予定変更が苦手でしたが、現在は作業が変わっても柔軟に適応できるようになってきています。とくに炭作業に関してはやる気満々です。最近は細かい作業慣れてきてネコミミの縫いも綺麗にできています。例会に関しては自分自身でやる、やらないを、はっきり決めているようです。

(暁生)

KO. M

マンツーマン対応の仲間です。

月・水のパンの作業に入る時は集中力もついてきて、時には休憩をしなくても頑張ってくれる時もありました。その他の日の内職作業等も、自分のペース配分での作業もできているので、引き続き、様子を見つつ無理のない作業を行って頂きたいと思いましたが、25年2月に入所施設へ入る事になった為、退所されています。

(小林)

YU. M

作業はとても意欲的で、内容を覚えていることも増えています。苦手な声が増え、耳を塞ぐ場面が多いことは変わらずあるも自身が話している時などは、他の声は気にならないこともできました。皮膚疾患とむくみがあるため、作業中と入浴前後の脚上げを継続し皮膚観察と薬の塗布を続けていきたいです。服薬について、今後の状態によっては変更もあり得るので飲み忘れや紛失がないように、これからも見守っていききたいと思います。

(池田)

NA. MU

週に一日、食パンの木曜日に入っています。不安定な日が多いですが、軽量が得意でとても集中できます。次に何をするか見通しがつくよう職員の配慮が必要な仲間です。不安定な時はバランスボールを飛んでリラックスに向かうことが多いですが、他に気分転換できる事がないか見つけてあげたいです。

(松尾)

HI. Y

生活環境の変化により体調に影響が多くみられましたが、PT、OTへの相談で体調の改善ができました。また、介護ヘルパーが入るようになり入浴も出来るようになりました。通院の付き添いも継続しており、本人・看護師・職員とで今の現状を確認し受診をしています。下枝の状態は良い傾向に進んでいますが全身の皮膚状態に注意が必要です。

(北村)

YU. Y

週に3日間、パンの作業に中心で入っていますが、昨年度から週2回の内職や力仕事、廃品回収などの外作業に入り、やりがいを持って頑張っています。パンでの作業も、色々と戦力になりお願いする事も多く、時間に追われたりなかなかうまくいかないことに関してイライラを募らせる事も増えてきたり、自分の作業に対する自信も無くなっている事もありました。その辺りのフォローを入れたり簡潔に分かりやすく話す様に注意して、引き続き見守っていきたいと思います。

(小林)

3. B グループ

《2024年度(R6)事業計画と総括》

【1】報告会のスタイルを変えて、仲間も職員も全員で（大変だったことや良かったことも含め）その日の出来事を共有していく。

【短期目標】

① 仲間の会を定期的に行い、仲間のやりたいことや想いを聞いていく。

現状の課題

仲間の会の開催頻度は昨年度より増えましたが、職員と仲間が増えたことにより、朝の会では話し合いの時間を確保することが難しくなってきました。仲間の会の回数を増やし、事前に年間スケジュールを決めて、テーマに沿って話し合いをしていくことが課題で、より下準備が必要となってきました。また、今年度は例会の中身やレクの話が中心となり、一部の仲間の希望が通らないケースがありました。

一方で、第二麦の里についての進捗状況の報告や共有などの話し合いを早急に進める必要があります。また、例会での中身について話し合った際には、希望がなかった仲間が例会を欠席することもあり、自分の意見を言えない仲間については、仕草や視覚でのアプローチをするなど、職員側の工夫が必要となっています。現在作業の種類が少なく、困ったときに外出作業を組むことがあります。そのような時に小グループでの仲間の会の開催をしてはどうかという意見もあり、検討が必要です。

良い点

昨年度よりも多く仲間の会を開催できたことで、「やりたいこと」を聞く場面が増えました。これにより、仲間たちが自分たちの意見を出しやすくなり、参加意欲につながっています。今年度は、個別レクについての相談や第二麦の里に関するアンケート調査、成人式の出し物についての相談ができました。

改善提案

1. 仲間の会の頻度増加

- ・仲間の会のテーマと担当職員を決めていくことと合わせて、年間スケジュールを組み立てていきます。仲間の会をより充実したものとしていきます。

2. 小グループでの仲間の会の検討

- ・小グループで開催していくことで今までと違って、より気軽に話し合いができるようにしていきます。

3. 急務の話し合いの迅速化

- ・第二麦の里についての話し合い等早急に実施、イメージを膨らませていきます。

4. コミュニケーションの充実

- ・自分の意見を言えない仲間に対して、仕草や視覚による選び方など工夫をしていくことで、気持ちを汲み取る方法を見つけます。一人一人にあったアプローチを心がけます。

②報告のスタイルを変えて、代表者を決めて、報告がみんな揃ってできるように工夫をしていく。

現状の課題

作業ごとに午前午後と代表の仲間を決めて報告するスタイルに変更されました。これにより、積極的にやれる仲間も出てきましたが、中々代表になれない仲間もいて偏りが見られます。全員が揃って報告会ができていないことも多々ありました。

仲間の人数増加のため、報告の時間とトイレの時間が重なり、参加できていない仲間もいます。「みんなが集まらないのはどうか？」という意見と「全員が出なくてもいいのではないかな？」という意見に分かれています。

トイレを済ませて報告会に参加できるように時間等の調整が必要となります。また、報告が形だけになっているという意見もあり、報告会の目的についても職員や仲間を確認し合う必要があります。

良い点

報告するスタイルが代表制に変更されたことで、譲り合いなど話し合いの機会を持つことができます。また、次回の作業の申し送りなども行えました。一部の仲間は報告に対して積極的に取り組み、代表者がしっかりと報告できるようにトイレや水分の時間を調整するなどの工夫も見られます。

また、報告を午前中に行った仲間は、「次は他の人をお願いしたい」と自ら意識している姿もありました。

改善提案

1. 時間調整の工夫

- ・トイレや水分の時間を報告時間と重ならないように調整し、なるべく全員が参加できるように工夫していきます。また、トイレや水分などで抜けてしまう時などには、周りの職員や仲間たちに声をかけて、協力していきます。

2. 報告会の意義の再確認

- ・報告を形だけのものではなく、意味のある活動にしていきます。作業終わりに仲間たちとできたことや達成感などを共有し、意味のある報告会としていきます。

【2】外に出たい仲間が多いことから、車いすの仲間も外に出られる機会を増やしたい。また作業でのやりがいを感じられるよう取り組んでいく。

【短期目標】

①外作業の開拓をしていく

現状の課題

前年度と変わらず、外作業の開拓が進んでいない状況です。車いすの仲間も外に行きたいという希望がありますが、買い物や納品以外の外出機会が限られており、車いすの仲間が出かけられるような廃品回収先を増やすことはできていません。

新しい廃品先や納品先は少しずつ増えているものの、強度行動障害の仲間が外作業に参加する機会が中心であり、車いすの仲間が出かける機会は車両の制約もあって限られています。また、車いすの仲間が増え、室内作業で落ち着けない仲間も増えているため、外作業に行ける仲間が固定化される傾向があります。

良い点

春や秋には、車いすの仲間たちは順番に、北山団地の廃品回収に出かけることができました。外作業の方が分かりやすい仲間たちにとっては、作業に慣れてもらうための良い機会となっています。

改善提案

1. 新しい外作業先の開拓

- ・車いすの仲間も参加できる廃品回収先や納品先を増やすように、地域の企業や団体との連携を強化します。車いす対応の場所を優先的に探し、機会を増やします。

2. 仲間の会の開催

- ・外作業に関する定期的な話し合いの場を設け、仲間たちの希望や意見を聞きながら改善策を話し合います。これにより多くの仲間が外作業に参加できるようになります。

3. 車いすの仲間への配慮

- ・車いすの仲間が安全に外出できるように、バリアフリーのルートや作業場所を選定し、外出の際に必要なサポートを提供します。

4. 作業の多様化

- ・仕事だけに捕らわれず、散歩などの機会も取り入れたいと考えています。
全員が楽しめる作業以外の機会も作っていきます。

②作業前に仲間と職員とで目標を決めて、やりがいと達成感を得られるように取り組む

現状の課題

作業前に取り組む内容について仲間とイメージの共有や作業工程の合意ができれば良いですが、各作業班で目標設定が共有されていない場合もあります。同じ仲間が同じ作業に入ることもあります。作業項目が少なく、選ぶスタイルを実現するのが困難です。

良い点

達成感を感じさせるための「頑張ったね」という言葉がよくかけられています。

【中長期目標】

- ① 例会活動だけでなく、その他のレクリエーションを計画していく

現状の課題

レクリエーションは仲間たちも楽しみにしている活動です。そのため、今後も大事にしていきたいですが、計画をする職員にとっては負担が大きいため、レクリエーションの持ち方を改めて考えていく必要があります。

秋にはレクリエーションが集中して、計画と実行が大変でした。今後のレクリエーション活動をより効果的に進めるために事前の話し合いと計画が大切です。

良い点

今年度、1人1回は実施できました。新しい経験を通じて思い出を共有し、仲間たちの活力やエネルギーに繋がることが確認されました。

改善提案

1. コンスタントな開催：

- ・個別レクの相談やアンケート調査を行い、計画をコンスタントに実施します。これにより、仲間たちが常に活動に参加できるようになります。

2. 無理のない計画：

- ・レクが集中しないように、年間スケジュールを見直します。無理のない計画を立て、実行できる範囲で活動を実施します。

《2025年度(R7)事業計画》

【1】仲間たちの活動をより豊かにしていくために

[短期目標]

仲間の会の定期的な実施

・課題を共有し、解決していくため仲間の会を月に1度は開催する。

- ① “話し合いたいテーマを決める仲間の会”を開催する。
- ② 担当職員を月毎に2名決めて配置する。
- ③ 気持ちを上手く汲み取ることが難しい際には、写真や絵カード等を用意しておき、活用する。

[中・長期目標]

車椅子の仲間たちの活動の幅を拡げる

・作業だけでなく、意欲に繋がるような創作活動や散歩を取り入れる。

- ① 毎週水曜日の午後に行う（入浴と重ならず、目当ての仲間が活動に参加しやすい）。
- ② 中身については、毎回の仲間の会で話し合う。
- ② 創作（散歩）活動の担当職員を相談する。

仲間三行総括 B グループ

TA. A

車の運転をする真似が好きで、外作業にも積極的ですが、疲れがたまると発作が起きやすいので、外作業は週2回までにすることは継続しています。中作業においても準備や片付けを積極的に取り組んでいます。以前はこだわりがあり、なかなか譲らないこともありましたが、最近は少しずつ譲り合いができていますので話し合う機会を更に作っていきたいと思います。

9月からホームでの生活が始まり、最初は寝不足等もありましたが、少しずつ慣れてきています。Dr.とお母さまと話し合い、抗てんかん薬の調整。減量することになり、その後は、ふらつきも少なくなつて安定してきています。

(尚)

ER. I

5月にリハビリ目的で入院されました。その後、身体が円背になることを予防する目的で必要時に車椅子にテーブルをつけたり、リハビリ効果継続のために入浴後は仰臥位と伏臥位にて身体を伸ばしてもらふ機会を設けています。本人が好きな作業でもウトウトしていることが増え、どうしたら作業に参加できるかが課題となっています。

(歩)

AY. I

昨年の3月から麦に通所されています。のみ込みが早いため、新しい作業にもすぐに慣れ、どの作業も手際よく取り組まれています。ただ、ぼかしの作業はぼかしに触れる事が苦手で、スコップ等の道具を使うことにより参加出来ています。潔癖なところがあり、ガムテープが手につく事も嫌がられ、手の感触が敏感なようです。4月よりナーシングホーム寿々に入所され、しばらく睡眠が安定しない日が続きましたが、5月には安定し麦に慣れてきたこともあり、いたずらが増えるようになりました。入浴はとても好きで、早く入りたいとアピールされることが多くありました。待つことが苦手で、昼食時食べたいことが優先され、胃ろうの管を抜いてしまうことがあります。待てない事からいたずらに繋がってしまうことが多くある方ですが、甘えたい気持ちがあるため、遊びを交えて待つことが出来るといたずらに繋がらない事もあります。また、胃ろうのボタンの周囲を搔いてしまい荒れることが多くあるため、昼食後は綺麗に拭き、清潔を保った状態でワセリンを塗布する必要があります。現在うがい上手に出来ず、口腔内が清潔に保てていないため、本人にうがいの指導が必要と思われます。理解力は高いですが、耳が聴こえにくいこともあり、コミュニケーションがきちんととれているか疑問があります。本人がより多く理解出来る形で、非言語的コミュニケーションをとれることが望ましいです。令和7年1月にナーシングホーム寿々は退所されました。

(高木)

AY. U

内職では、ボカシのアレルギーがあっても他の仕事には積極的に参加して、頑張っています。特にバリ、缶の袋入れ、ボカシの梱包などが得意です。外の仕事もとても熱心です。職員が声をかけながら案内すると自分で歩き、階段のドアを自分で開けることもできます。話すことが好きで、職員と仲間との会話が増えています。アレルギーも多く、寒くなると皮膚も乾燥してしまうため、職員と看護師と一緒に見守りを必要です。

(リン)

SA. 0

麦に通所され2年程となり、バリや缶の作業を中心に色々な作業に慣れてこなされています。段ボールを運んだり、缶の作業では自ら缶をつかみ機械へ入れたりと出来ることが増えました。睡眠が安定しないため、5月に睡眠薬を増やされましたが、日中の眠気が強くなり2週間程で元の量に戻されています。麦では、昼寝をされると午後の作業の時間に起きられない日が多くありました。特に夜間の睡眠が安定しない夏場に多く、昼寝の時間や場所を調整し対応しています。また、転倒や転倒につながる躓きが今年度は6度起きており、5月には足をひねり、上手く歩けない状態になりました。支えがなくても歩行や立位を保つことは出来ませんが、危険を伴うため、特に外作業では安定した支えが必要と思われます。また、身体に痣が出来やすいため、支える際の注意も必要な方です。トイレの回数は多いですが、麦での排尿が1～2回しかない日が多く、全く排尿がない日もありました。水分摂取以外の時間にもう少し水分をとれることが望ましいと思われます。

(高木)

MI. K

色々な作業に取り組まれ、どの作業も責任感を持って参加されています。ただ、いつもと違う状況になると、麦でも自宅でも動きが止まってしまう事が多い為、本人が納得出来る形で変化に慣れて貰えるよう声掛けを継続していきたいです。また、今年度は体調を崩すことが多かったため、体調の変化にも注意をしていきたいです。ご家族の方が体重を気にしておられるため、作業等で身体を動かす機会を多く作り、情報交換をしていきたいです。

(高木)

SH. K

今年も外作業を中心に活動に取り組んでいます。11月に腰骨の圧迫骨折をして、思うように体が動かず、本人もつらい時期もありましたが、完治して、元気に外作業に参加しています。今後も怪我に気をつけて頑張りたいと思います。

(修)

YO. K

麦の里ではベンチや作業室のソファなどご自分で落ち着ける場所を探し過ごされています。作業中は仲間や職員とコミュニケーションをとりながら取り組んでいます。発言もふえてきており

「ボカシ納品いきたい」と仕事にはとても積極的です。作業中、耳をふさぐことはありますが、職員の声かけで作業をしています。今後ともご本人が落ち着ける場所を大事にして支援していきたいです。

(伊勢)

KO. K

内職ではバリの作業に取り組むことが多く、様々な種類のバリに取り組んでいます。途中の休憩も減ってきました。文字盤を使用して、職員とやりたいことや、やりたいことについて話し合いました。ぼかしとの直接的な接触はありませんが梱包、ボカシ納品するのには参加しています。外の仕事では車いすを使用して移動したり荷物を運んだりしています。

(リン)

MA. K

どんな作業でも最後まで集中して頑張ってくれます。外作業では、相手先に大きな声で挨拶をしていつも頼もしい存在です。最近は空いた時間に隣の仲間に話しかけて会話をしている姿も印象的です。今後も健康に気をつけて、安定した毎日を過ごしてほしいです。

(修)

MAR. K

「天真爛漫」という言葉が似合う仲間です。好きな職員さんとの関りが大好きでかかわりを求める一方で、自分なりに納得をして行動をしないと場面の切り替えは難しく、そこをいかに本人の気持ちに寄り添って行うかは毎回課題となっていると思います。この一年で、ずいぶん発言やスキップすること、作業でできることも増えてきています。より一層、職員が「待つこと」「寄り添うこと」そして何より「本人の気持ちの整理に共感すること」を大切にしていきたいです。

(岩切)

KE. K

作業中は会話をしながら、嫌なときは嫌、好きな事・やりたい事は笑顔で答えてくれたり、表情が豊かで職員を成長させてくれています。バリ取りの作業では、指先を上手に使ってつまんだり、ボカシの作業では袋を掴んで下に落としたりできているので今後もいろいろな作業を通して出来ることを増やしていきたいと思います。食事形態をスベラカーゼをごはん以外にも使用したことで、本人にとって食べやすくなりました。しかし、痰がたまりやすいので、排痰を促す声かけは継続して行っていき、必要に応じて吸引をしていく必要があります。

(尚)

SE. K

「ママ電話」「やだー」と言うことが多いですが、バリとりや缶作業は、いたずらしたい気持ちを持ちながら楽しんで行っています。また、ぼかし納品や買い物等は、ドライブ好きなこともあり表情がとても良いです。水分時にお茶を吐き出してしまいあまり多く摂取できないため、持参のアクエリアスを飲用してもらったり、おやつの牛乳をしっかり飲んでもらえるようにして対応しています。

(歩)

AK. S

排泄ケア時、臀部の異常がないか毎回確認しています。発赤や亀裂がみられることもあります。早期発見・対応で、悪化することなく過ごさせています。疲れが溜まってくると発作が増えてしまうため、本人の表情や状態をよくみるように努めています。作業は、どの作業も一生懸命に行われており、集中できる環境では職員がびっくりするほどの成果を出してくれます。

(歩)

AR. S

外作業を中心に取り組んでいます。廃品回収では段ボールの持ち方、運び方が慣れてきて、率先してスムーズに作業ができるようになりました。麦の里での一日のスケジュールを理解して、トイレの誘導も職員が声を掛けて移動できることも増えました。今後は色々な作業に挑戦して、作業の幅を広げてほしいと思っています。

(修)

AI. M

バリやボカシ作業といった中の仕事も、外の仕事も頑張っていると思います。ときどき外に行きたいと教えてくれるので、外での仕事も取り入れながら、気持ちのバランスを取っています。便の切れがよくないこともあるので、職員も排泄介助に気をつけて、ご本人が仕事に向かえる様になっています。

(リン)

HA. M

笑顔ニコニコ、作業は室内メインで活動されています。バリ取りでは洗濯バサミをひもに通しひもを引っ張ってバリをとってくれます。ボカシの作業は少し苦手な様子ですがボカシの虫取りではたくさんの虫を見つけてくれます。コミュニケーションもふえており仲間の会の司会などする場面もでてきました。リハビリに通うことになり麦の里は週2日利用されています。外作業にも興味をもっており、今後はご本人の体調や天気等を見て、外の作業にも多く参加して行けたらと思います。

(伊勢)

TS. M

麦の里では室内での作業を中心に取り組んでいます。自分で出来ることはなるべく自分できるようにコミュニケーションを取りながら作業ができています。今年度は、レクリエーションで室内プールへ行きました。浮き輪を使うと両手両足を使って上手に泳いで、全身を使った運動ができました。冬ごろにコロナになり、体調が安定せず、排尿がなくバルーンカテーテルをつけて一時、様子を見ることもありました。その後は自尿できるようになり、体調も戻りました。春先までエネーボを飲んでいましたが、医師の指示で中止しています。少し痩せてきている印象なので、様子を見ながらエネーボの再開を検討していきたいと思っています。

(尚)

KA. Y

外に出る仕事はずいぶん減ってきましたが、代わりに室内の作業には安定して取り組んでいます。体の拘縮が進んだことを考慮し、室内シューズを履いて行動することにより、転倒する危険も少なくなりました。仲間が集まる朝の会や報告などでも、本人はしっかりとその場にいることができていて、少しずつですが、興奮することなく参加できることも増えています。特に例会等の活動の参加したことは本人の記憶によく残るのか「楽しかった」「〇〇やったか？」と、活動に参加しているからこそ出る言葉も出ており、今後も活動に参加することを、しっかりとサポートしたいです。

(岩切)

YU. Y

外作業メインで麦の里で活動されています。廃品回収では積極的に段ボールやチラシなどを運んでくれます。車から段ボールが落ちると、きちんと拾いきちんと車に押し込む場面などみられました。中の作業特にバリ取りではとても集中して沢山のバリをとってくれます。作業以外で見通しが立ってきて麦の里館内で過ごせる場所もふえてきました。自分に与えられた仕事は考えながら作業をし、最後までやり遂げることができます。

(伊勢)

4 療護グループ

《2024年度(R6)事業計画と総括》

【1】重度重複の仲間たちの活動を考えよう

体幹遊び、リラックス体操、散歩など、仲間が笑顔になれる活動を充実させよう

[短期目標]

①PT/OTと連携を取りながら身体を触る機会を作っていく

現状の課題

PT/OTの出勤日は月に2回ずつです。来ていただいた日には、身体を使う活動を多く取り入れられました。PTからは麻痺があり、身体が硬直した仲間に対しての身長の測り方を学びました。また、PT/OTの出勤日が限られていることもあり、身体を使う活動を通年で一貫して行うことが困難な状況でした。

良い点

OTが来て下さる時間はとても貴重で、急ぎの仲間から相談して身体をみていただきました。PTは毎回いろんな道具を持ってきてくださり、身体を使った遊びを通して仲間たちと楽しむことができました。

成人を祝う会では、車いすダンスの発表に向けて練習し、仲間と職員と一致団結してダンスに取り組むことができました。PTから学んだ知識を活かしている職員もあり、日々の業務に役立てています。身体を使う活動が実施され健康維持に寄与しています。

改善提案

1. 活動の計画と調整

- ・通年で安定した活動を行うために、計画的にスケジュールを策定し、人手不足や職員の業務が忙しい日でも柔軟に対応できるようにします。

2. PT/OTとの連携強化

- ・PT/OTの出勤日を事前に共有し、職員と連携して効率的に身体を使う活動を計画します。
- ・PT/OTとの定期的なミーティングを設け、活動内容や進捗について情報共有を徹底します

3. 職員の研修と学習機会の増加

- ・職員の知識とスキル向上を目的とした研修や学習機会を増やし、PT/OTからの直接指導や外部講師による研修を積極的に取り入れます。
- ・職員間での知識共有や学習の機会を設け、全体のスキルアップを図ります。

②仲間1人1人に合った方法でリラックスして、心身ともにリラックスしたい。それぞれが、リラックスして過ごせるように、体位変換や体操などを取り入れていきたい

現状の課題

麦の里を長く利用している仲間は、自分の中で麦の里での過ごし方の見通しも立ち、リラックスして過ごしています。今年度から利用している仲間は現在、慣れつつある段階で、まだまだ、緊張しているように見えます。同時に職員も手探りで仲間たちと関係を作っている段階です。

年度初めは体操や姿勢保持に取り組めていましたが、人手が足りない日や職員の業務が忙しい日もあり、計画的に取り組めていないことが現状です。体操や姿勢保持は仲間たちの身体を知る機会・触れあう機会として大事にしていきたい活動です。

ユーチューブ動画を観ながら体操を行うこともありましたが、年度後半には、難しくなってきました。

1人1人にあった方法と楽しみ方で、療育活動・レクリエーションをしていくことは大事です。そのような活動、取り組みをしていくことが課題となっています。

良い点

年度初めには体操や姿勢保持等に取り組む意欲が見られ、職員の間では継続的な取り組みが進められました。また、ユーチューブ動画を活用し、仲間たちと体操に取り組む姿勢が見られました。

改善提案

1. 体操や姿勢保持の取り組みの継続性

- ・人手が不足する日や職員の業務が忙しい日には、柔軟にスケジュールを調整して体操や姿勢保持に取り組む時間を確保します。
- ・ユーチューブ動画を参考にしつつ、体操プログラムを作成します。

3. 個々の利用者に合わせた対応の強化

- ・一人一人に合ったリラックス方法を探り、リラックスの時間を設けます。
- ・定期的な体位交換に加え、個々のニーズを詳細に把握し、対応策を講じます。

4. 活動内容の決定の効率化

- ・翌日の活動を前日までに決定し、仲間たちに共有することでスムーズな進行を図ります。
- ・仲間の会で決めた年間行事計画を詳細化し、具体的な活動内容を盛り込みます。

③ 1 週間、1 か月のやりたいことなどの予定を大まかに決めていく

現状の課題

年間行事は仲間の会で決めることができましたが、翌日の活動が決まっていないことが多々ありました。

良かった点

レクリエーションとして、2つのグループで日程を2日間に分けて名古屋港水族館に車で行くことが出来ました。仲間たちと「思い出づくり」をして、良かった共有をすることも出来ましたが、遠出が難しい仲間もいたことは反省点として捉えています。来年度に向けて、個別の取り組みも含めた話し合いを始めています。

改善提案

1. 計画的な進行

- ・週に一度仲間の会を開き、活動内容を相談して決めることで、計画的な進行を目指していきます。

④ 日々の活動に取り入れることのできるような活動を行っている方を、麦の里に呼びたい

現状の課題

麦の里に活動を取り入れるための取り組みにおいて、仲間たちの活動がさらに広がるように期待されていますが、それを実現するための具体的な方法が不足している状況です。

改善提案

1. 継続した取り組み

- ・来年度も継続して活動を進めるための計画を立てます。
- ・新しい活動を提供するための計画を策定し、PT・OTの協力を得ます。

2. 活動の多様化

- ・日々の活動を増やし、仲間の活動が広がるように努めます。
- ・PT・OTから提供された新しい活動を積極的に取り入れます。
- ・外部から専門家を招く機会を増やし、活動の質の向上をはかります。

⑤ 仲間の個別支援計画を職員で共有する

現状の課題

個別支援計画の共有が十分に行われていません。特に、計画を見たい方々が容易にアクセスできる体制が整っていないため、必要な情報を迅速に確認することが困難です。今年度は計画の共有ができておらず、これにより支援活動の一貫性に影響が出ています。そのため、来年度に向けて、計画の共有を徹底する必要があります。

また、グループ会議を通じて仲間たちの状況や支援内容について話し合う機会が不足しており、これが情報の偏りや支援の不統一性を引き起こしている可能性があります。

この現状を改善するために、情報共有体制の整備やグループ会議の定期的な開催が求められています。

改善提案

1. 個別支援計画の共有体制の強化

- ・皆がいる場面で個別支援計画を共有する時間を設けていきます。
- ・閲覧したい職員が自由に計画を確認できるようにする体制を整えます。

2. 計画の確実な共有

- ・今年度中に共有できなかった計画を必ず共有するための具体的なスケジュールを作成し、確実に実施します。

3. グループ会議の実施

- ・定期的にグループ会議を行い、仲間についての情報や意見を共有する場を設けます。
- ・会議の議題として個別支援計画の進捗や課題を取り上げ、全員で議論する機会を増やしていきます。

[中長期目標]

① 医療的ケアの仲間が増えてくるので、それに対応できるように、引き続き第2号・3号の資格取得者を増やしていく

現状の課題

現在、医療的ケアが必要な仲間がいますが、対応できる職員の数が不足しています。また、医療的ケアに関する研修を受けたい職員がいるものの、社内でも研修の募集がないため、資格取得者を増やすことができませんでした。新たな資格取得者を増やすための取り組みも不足している状況です。

第2号および第3号の資格取得者を増やしていくことは、仲間たちのケアの充実につながります。来年度に向けて、資格取得を支援する制度の整備や研修プログラムの実施を通じて、職員のスキル向上と医療的ケア対応の強化を図り、仲間に適切なケアを提供していくことを目指します。

改善提案

1. 研修の確保と募集

- ・職員が医療的ケアの研修に参加できるよう、研修の募集情報を積極的に収集し提供する。
- ・研修を希望する職員が確実に参加できるよう、スケジュール調整やサポートを行う。

2. 外部支援の活用

- ・外部の専門家や医療機関との連携を強化し、医療的ケアに関する研修や講習を提供する機会を増やす。

②身体ケアの職員のスキルを上げていく

現状の課題

職員のスキル向上が求められている中で、身体について学べる機会が不足しています。そのため、職員の専門知識や技術の向上が十分に図れていない状況です。

また、着脱に対応できる女性職員を一人増やしたものの、依然としてさらに人手が必要な状況です。現時点では対応が追いついておらず、スタッフの増員が急務となっています。

さらに、最新の介護技術を学ぶための職員研修が不足しており、職員が日々の活動を通じて個々にスキルアップするだけでなく、全体で研修を受ける機会が求められています。職員全体のスキル向上を図るためにも、研修の機会を増やす必要があります。

このような課題を解決するために、今後の取り組みを検討していく必要があります。

改善提案

1. 学習機会の拡大

- ・身体ケアに関する知識を深めるための研修やワークショップを定期的 to開催します。
- ・最新の介護技術や理論を学ぶ機会を増やしていきます。

2. スタッフの増員と育成

- ・新たなスタッフを採用し、着脱やその他のケアに対応できる職員を増やしていきます。
- ・資格取得支援や研修参加のサポートを強化し、職員の育成を進めていきます。

《2025年度(R7)事業計画》

【1】 重度重複の仲間たちの活動を考えよう

体幹遊び、リラックス体操、散歩など、仲間が笑顔になれる活動を充実させよう

[短期目標]

- ① P T / O T と連携を取りながら身体を触る機会を作っていく。
- ② 身体を触る機会を増やしていき、仲間と職員と触れ合う時間を作る（体操など継続的に取り組めるようにする）。
- ③ 療育活動をしていく中で、仲間1人1人にあった楽しみ方、取り組みを行う。
- ④ 年間計画(例会活動や個別レクリエーションなど)を立てたので、それを基に翌日の活動を決めておくことで、どの職員が入っても活動が継続的にできるようにする。

[中長期目標]

- ① 医療的ケアの仲間が増えてくるので、それに対応できるように、引き続き第2号・3号の資格取得者を増やす。
- ② 外部の人（講師）を呼んで、仲間と一緒に身体の触り方など教わる（受ける）ことで職員のスキルアップに繋げる。

仲間三行総括 療護グループ

JU. I

今年度も発作が多く体調が安定しないこともあり、麦の里の利用はありませんでした。
(村松)

SE. K

4月の初めに誤嚥性肺炎にて、2週間ほど入院しました。また初潮を迎え、その際には発作や不随意が増えるなどといったことはあるものの、それにより大きく体調を崩すことはなく過ごすことができています。しかし、まだ安定しないので、引き続き様子を見ていく必要があります。また栄養剤の変更があり、栄養状態も落ち着いてきています。活動においては、作業よりも体幹あそびの方が好きそうで、トランポリンなどには表情よく参加しています。

(柳原)

YO. K

今年度もこばと利用のため麦の里の利用はありませんでした。お母様から本人の様子を確認すると、側弯もひどくなってきたいて、肺も片方は機能していないとのことでした。また、その影響から呼吸状態も悪く、夜間は呼吸器を使っています（筋緊張が強く、眠剤を使って眠ってからの装着）。

昨年度も気管切開を勧められていましたが、今年度、後半に Dr. に相談。筋緊張が強く、気管切開した場合に装着する器具で血管を傷つけてしまう恐れがあるため、勧めないと言われたとのことでした。今年度、気管切開はしていません。

(村松)

CH. K

6月3日に38℃台の発熱がありました。自宅療養し、10日に再び麦の里に登所しましたが、38℃台の発熱ありました。13日に熱が下がり、麦の里に登所しました。翌日も登所しています。土日と自宅で様子を見ていましたが、17日の朝に発熱と咳も多く、様子がいつもと違うため救急車で陶生病院へ救急車搬送しました。肺に膿が溜まっている状態だった（肺化膿症）ため、手術となりました。原因としては誤嚥です。その後、陶生病院に入院しながら気管切開・食道ろうの手術をしました。定期的な吸引が必要となり、お母様としては自宅では難しいということから、9月より医療体制のあるみどりのまち病院に入ることになりました。同時に麦の里を退所されました。

(村松)

CH. S

コロナ感染はありましたが、大きく体調を崩すことはありませんでした。食事を増やす事で体重は安定しましたが、年々、咀嚼する時間が長くなってきている為、様子をみていきたいです。活動ではのんびりすることが好きですが、スイーツ作りは好きな活動の1つで、みんなと一緒に作ったりします。

(川口)

SA. S

昨年度から利用の回数を徐々に増やしてきました。送迎で麦の里に着いたときには車から降りることができないこともあります、リズムができたのか、麦の里に来ることができないといったことはなくなりました。仕事も一つずつ自分で確認しながら丁寧にこなすことができています。話しかけると小声ではありますがはっきりとした意思表示をしてくれます。笑ったり喜んだり悲しんだり色々な面を見せてくれますが、今後も色々なことに取り組んで楽しく過ごせるようにしていきたいです。

(倉知)

SH. T

今年度から新たに利用を開始しました。最初の頃は、緊張して体を硬直させる場面も多く、給食もほとんど食べることができませんでした。利用を重ねるうちに緊張することも少なくなり、給食も完食することが多くなりました。最初は週2回利用でしたが、週3回利用に増え、環境にも慣れ笑顔も多くなり楽しくすごせるようになってきました。これからも色々なことに挑戦して楽しく利用できるようにしていきたいです。

(倉知)

MI. T

8月にコロナになり、熱が下がらず、呼吸状態が悪く入院。その直後は、ゼロゼロが多くうつ伏せをするなど調子のいまいちの日が続きました。年末ごろに熱発が続き、ゼロゼロがあることにより、吸引、1日中うつ伏せをする日が続いています。吸引するだけでなく、うつぶせ寝をするとは、自己排痰を促すことにつながるので、継続していきたいです。調子のよい時は、よくおしゃべりをして楽しみ、作業やボーリング等の活動にも意欲的に参加しています。

(柳原)

NA. T

8月、2月にコロナに感染しました。2月の感染明けから食欲低下、食事の食べにむらが出てきました。楽しく、美味しく食事がとれるよう体幹遊び、散歩、車イスダンスなどの取り組みを増やし、体を動かしていきたいです。

(川口)

TA. N

今年度は、体調を大きく崩すこともなく穏やかに過ごすことができました。体位交換は午後のオムツ交換後に毎日行いました。日中活動での創作活動は、職員と一緒に色鉛筆などで塗ったり紙をのりで貼ったりする作業もじっと見つめて興味をもっており、楽器遊びでは、音を鳴らすと鳴る方向へ視線を動かしています。実習生が入るととても嬉しそうな表情をするなど、喜怒哀楽がよく見られました。来年度も楽しめる活動を模索していきたいです。

(市来)

HA. N

自宅から麦の里へ着くと、しばらく泣いていることが多いですが、しばらくすると職員が関わらなくても泣き止むようになってきました。また、泣いていてもオムツ交換のため場所を移動してカーテンで囲むとすぐに落ち着くことが多々ありました。そのため本人にとってカームダウンルームのような場所を作るといいのかもしれません。

日中活動では、自分の手を叩いてその感触を楽しむことが多く、鈴を持たすと鳴らして音を楽しんでいることもありました。また、麦の里に慣れてきた様子で、そばにいる職員の手や首を掴んだり、ちょっかいを出したりすることも増えてきました。

(市来)

GE. H

4月から痰が増えて吸引するようになりました。発熱も繰り返し、7月のコロニー通院時に抗てんかん薬の中に「痰が増える」副作用があり、減量することになりました。それにより、発作が増える可能性があることから発作の記録を取りました。結果、発作に関しては落ち着いています。また、痰が増えることは、アレルギーかもということから血液検査をし、その結果からカルニチン欠乏の診断が出て、毎朝エルカルチンが処方され服用しています（アレルギーが原因ではないとのこと）。また、ファイバーによる誤嚥検査もし、「誤嚥しやすい」とのこと。7月に摂食指導、8月に栄養指導を受けて、食事形態を刻み食から、スベラカーゼを利用したペースト食へ変更しています。食事形態変更後、飲み込みも良くなりました。2月には、嘔吐があり、出血を疑い、胃カメラ検査もしました。「萎縮性胃炎」との診断でした。また、3月に再度、痰を減らす目的で抗てんかん薬を減らしました。発作の記録も再開しています。また、週1回の排便が出ない日が続く、排便コントロールのために下剤の服用を開始しました。

療護の活動では眠気が強いことも多いですが、起きている時には車椅子ダンス、ボーリング、創作活動など参加しています。調子の良い時には視線も活動に向き、参加意欲が伺えます。来年度も調子の良い日には積極的に活動に参加していきたいと思っています。

(飯村)

RI. Y

今年度もこばと利用のため、麦の里の利用はありませんでした。

(村松)

RY. W

体調面の変化はなく、通院・ショートステイ以外は通所しています。臀部については午後にワセリン塗布をし、予防をしています。状態としては、良い状態が続いています。

日中の活動時に車椅子から降りて職員と一緒に過ごすことは継続していて、時間も長いと60分くらい降りていることも増えてきました。降りている時には立ち上がって散歩を試みたり、職員の膝の上でくつろいで見たりなど、楽しんで過ごされています。

近くの職員に手足を使ってコミュニケーションをとったりすることも増えてきたように見受けられます。

(飯村)

5 職員体制

《2024年度(R6)事業計画と総括》

【1】連携が取れるように職員間のコミュニケーションを大切に
する

[短期目標]

①各グループのまとめ役となる職員をつくっていく

現状の課題

Bグループと療護グループには正式なまとめ役が決まっておらず、主任と勤続年数が長い職員が中心となって日々の活動を取りまとめています。そのため、グループの統一感や職員の働きやすさに課題が残っています。主任とは別にグループを把握している職員がいて、職員も働きやすく、経験が浅い職員も相談しやすいため、まとめ役となる職員を立てていくことが必要なのではという意見があります。

来年度には第2施設が開所予定ですが、グループ分割などの対応が必要とされています。

療護グループでは女性職員が中心となっていますが、リーダーを2人体制にすることで、どちらかが夜勤でいない際にも抜けがないようにしていくことが可能となります。検討していきたいです。また、みんながグループをまとめられるようにスキルアップしていくことも必要とされています。

3年目以内の職員が増えていることから「各作業で大切にしていること」、「仲間主体の介護・支援方法」の共有ができておらず、仲間たち中心の活動が難しくなっています。「仲間を急かさない」時間の組み立てをしていき、「仲間と一緒に悩んで困って、一緒に楽しむ」という基本姿勢を共有していく必要があります。

良い点

主任や勤続年数の長い職員が日々の活動を取りまとめています。また、Aグループでは、選任職員がいたことから自然とグループリーダーの役割をしており、グループの運営がスムーズに行われています。

改善提案

1. 職員間で麦の里が大事にしていることを共有していく

- ・各作業ごとに大切にしていること、仲間主体の介護・支援方法の共有をしていく
- ・仲間を急かさない時間の組み立てをしていく

2. まとめ役の配置

- ・Bグループと療護グループに、それぞれまとめ役となる職員を立てることを検討します。これにより、職員の働きやすさや仲間たちへの対応が向上します。

3. Bグループの分割

- ・次年度の第2施設設立に合わせて、Bグループを2つに分けるなどの対応を行い、職員1名にかかる負担を軽減します。

4・療護グループのリーダー配置

- ・療護グループに男性リーダーを1人配置し、男女それぞれの体調管理やフォローを強化します。

②職員のディスカッションをする場を設け、コミュニケーションをとって、相談しやすい関係づくりを目指す

現状の課題:

例会の午前中に3回程小グループで話し合う機会を設けましたが、それでは話し合う時間が足りませんでした。職員は増えましたが、1～3年目の職員が多く、また夜勤や遅番で会議が難しい状況の中、相談しやすい関係づくりができていない現状です。

良い点

来年度は、各グループで話し合う時間を保証するために、曜日ごとのミーティングを夕方に設定することを計画しています。これにより、職員同士のコミュニケーションを深め、相談しやすい関係づくりを目指しています。

改善提案

1. 曜日ごとのミーティング時間の設定

- ・夕方に各グループでミーティングを行う時間を設定し、職員同士のコミュニケーションを深める。

2. 小グループのディスカッション

- ・定期的に小グループでの話し合いを行い、意見交換や相談の機会を増やす。

3. 相談しやすい環境づくり

- ・経験の浅い職員が気軽に相談できるような環境を整え、日常業務の中でのサポートを強化する。

- ③ 夕方の振り返りの時間を有意義なものできるように、各グループで「困ったこと」「悩み事」「良かったこと」「大事にしたいこと」ケース検討等を行い、共有できるようにする

現状の課題

夕方の振り返りでは「情報共有」としての機能は果たしていましたが、「ケース検討」としては十分に機能していない現状です。困ったことを会議で出しても、他の話で消えてしまい、話しにくいと感じる職員もいます。大人数よりも少人数の方が話しやすいという意見もあります。

良い点

各グループでのディスカッションの場を来年度に向けて実現することで、職員同士のコミュニケーションを深め、相談しやすい雰囲気を作る計画をしています。また、“話し合うテーマ”を決めることで、時間を有意義に使えるように工夫する意向です。これにより、個別の相談がしやすくなるだけでなく、全体で話し合う時間も大切に考える考えです。

改善提案

1. 定期的なケース検討会議の開催

- ・グループごとに定期的なケース検討会議を開催し、具体的な事例について意見を交換します。

2. テーマを決めたディスカッション

- ・毎回のミーティングで事前にテーマを設定し、時間を有意義に活用します。

3. 少人数のディスカッションの導入

- ・大人数の会議では話しにくい職員もいるため、少人数のディスカッションの場を設け、意見を出しやすい環境を作ります。

4. 全体での話し合いの時間を確保

- ・方向性を出したい時や全員で共有すべき情報がある場合、全体で話し合う時間も大切にします。

5. コミュニケーションの促進

- ・定期的な会議を通じて職員同士のコミュニケーションを促進し、相談しやすい関係づくりを目指します。
- ・グループごとでの会議を定期的に行うことでケース検討と同時に職員のコミュニケーションを図っていくことも必要となっています。

④ グループ LINE などの活用を検討し、情報共有の方法を開拓する

現状の課題

できていません。夜勤・早番・遅番・送迎があっても、情報交換ができるように、申し送りノートを利用しているが、見ていない職員もいるので、把握できていない職員がいます。

良い点

長年、申し送りの不十分さが課題となっていました。申し送りノートの場所を決め、誰でもいつでも見られるようにしたために、閲覧しやすくなりました。それにより、情報共有も以前よりできるようになりました。

月に何度も更新する勤務表を LINE で共有するようになりました。

改善提案

1. 職員の意識改革

- ・職員自身が意識し、申し送りノートを確認するようにしていきます。

2. LINE などのツールの活用

- ・LINE グループを作り、情報共有をしていきます。そのためのルール作りをしていきます。

⑤ 計画を立てて各種委員会（虐待、個別支援、感染症）を開催する

現状の課題

虐待の研修などに職員を派遣することができたが、学習したことを、他の職員に共有する場を設けることはできませんでした。一方で「虐待防止・身体拘束適正化の原則」ということで、内部研修を行いました。感染症の研修は3月に BCP の感染症対策と同時開催でノロウィルス対策について行いました。職員間で共通認識を強くしていくためにも委員会の強化が必要となります。

良い点

施設長、副施設長、主任を中心に、委員会を開催しました。

虐待防止委員会は8月・10月・2月に3回、感染症対策委員会は8月・10月・2月に3回開催。個別支援計画担当者会議は4月・10月の2回開催しました。

現状の課題

改善提案

1. メンバー編成

- ・他職員も含め、委員会の新たなメンバー編成を行います。

2. 開催スタイルの変更

- ・委員会の開催は、日中もしくは夕方に話し合いができるように整備します。また、研修報告会を職員会議で行い、難しい場合には回覧で周知するなどしていきます。

⑥例会活動の組立て（参加確認、レジメ、送迎表等）を以前のように正・準職員で担当して順番に行う

現状の課題

例会活動において、施設長、副施設長、主任が送迎や人数の把握など、全体の運営を行っています。しかし、その結果として、若手職員が全体の進行方法を理解する機会が十分に得られず、貴重なスキルアップの機会を逃してしまう状況が見受けられています。

良い点

役員会では、他の職員にも組み立てに関わってもらい仲間たちからも好評でした。

改善提案

1. 例会担当の見直し

- ・来年度は正職員・準職員も含めて毎月の担当を決めていきます。
- ・例会業務がスムーズに行えるよう、サブの担当がフォローできるようにしていきます。

[中長期目標]

①職員の人数が増えてきている中で、ホームも含めて連携の仕方を検討していく

現状の課題

連絡帳を中心とした情報伝達において、連絡事項の記載漏れが生じています。また、ホーム側でも日中の活動や状況に関する情報が不足していると感じている職員もいて、体調面や連絡すべきことについて、伝えきれていないことが多々ありました。

良い点

連絡帳を使い、一定の情報共有が行われています。

改善提案

1. 情報の共有

- ・連絡帳に記載すべき情報を明確にし、継続して周知していきます。
- ・体調の変化等を連絡帳だけでなく、口頭でも引継ぎをしていくよう習慣づけていきます。

2. LINE ツールの活用を検討

- ・方法の一つとして、LINE での情報共有も検討していきます。

3. ホームと里での情報共有をはかる

- ・ホームと日中施設間での情報共有を図るために、会議を計画していきます。

【2】スキルアップのための職員研修に積極的に参加していく

[短期目標]

①スキルアップのために、研修の案内をだし、積極的に参加していく

現状の課題

年度後半に実施された人間発達研究所の講座には参加しましたが、他の研修機会の情報が十分に職員に広がっていませんでした。また、他施設との交流は今年度もありませんでした。

良い点

人間発達基礎講座は、今年度はリモートでの参加も可能でした。業務時間内に多くの職員が参加することができました。

改善提案

1. 参加しやすい環境の整備

- ・研修スケジュールを検討し、参加しやすい環境を整えます。
- ・平日でも研修が受けられるようにサポートしていきます。

2. 研修リストを作成

- ・どんな研修があるのか、リストを作成し、職員に関心を持って推進していきます。

3. 他施設との交流の推進

- ・情報交換として、他施設の現場を知る機会として交流を計画していきます。

②強度行動障害、サービス管理責任者などの資格取得者を増やしていく

現状の課題

サービス管理責任者講習には1名が参加しましたが、他の職員の参加機会がまだ十分ではありません。また、強度行動障害の研修に参加した職員はいませんでした。

改善提案

1. 研修参加の拡大

- ・強度行動障害の研修をはじめとする研修プログラムに、より多くの職員が参加できるよう、スケジュール調整や優先順位の明確化を行っていきます。

2. 学びの共有

- ・参加して学んだことを職員に研修報告書で共有し、モチベーションを高めていきます。

③BCP 策定後の見直しと事前対策や教育・訓練等を年に2回は行い、PDCA サイクルを通して継続的に改善を行う

現状の課題

BCP の研修会は、6月より随時開始。クイズ形式の研修ポスターを掲示。また、3月には感染症対策委員会の感染予防研修と同時開催でノロウィルス対策について職員間で確認しました。3月31日の避難訓練時にBCP（災害）研修として「発電機の使い方」について学びました。更により良いものにしていくために、計画的且つ、効果的な研修が必要となります。

BCP の計画については10月に計画の更新をしました。

良い点

研修としてポスター掲示したことで、「BCP」についてパート職員にも周知することができました。

改善提案

1. 計画的なBCPの見直し

- ・BCP の計画に関わる職員を増やし、現場視点からより良い計画となるように見直していきます。

2. 訓練の計画的な実施

- ・地震災害及び火災時の避難訓練は定期的に実施できており、今後はその避難訓練に合わせて、BCPに関する訓練を行っていきます。
- ・実施後には訓練結果の振り返りを行い、さらなる改善点を反映できるよう努めます。

3. 職員間の共有の強化

- ・新しい職員も含め、BCPの内容を全職員で共有し、緊急時の行動手順を徹底します。
- ・また、クイズ形式の研修ポスターを作成、掲示し、他の職員・仲間にも閲覧してもらえるように工夫をしていきます。

4. 外部支援の活用

- ・必要に応じて専門家やコンサルタントを招いて、策定プロセスや訓練の実施をサポートしてもらうことも考えていきます。

[中長期目標]

① 社会福祉士・介護福祉士ならびに第2号・第3号喀痰吸引等 研修などの資格取得者を増やしていく

現状の課題

今年度は、社会福祉士、介護福祉士、第2号・3号研修に参加した職員がいませんでした。職員が、参加しやすい環境はまだ整っていないと考えられます。

改善提案

1. 研修参加の土台作り

- ・職員に研修の重要性やメリットを伝える場を設け、理解を深める機会をつくれます。

2. 参加を促す支援策の実施

- ・参加希望者が研修に参加しやすいように、時間的配慮（シフト調整、代替業務の手配）を行います。日中に研修への参加、休日での研修の場合には代休を検討、リモートを使用するなどの配慮を行っていきます。

【3】 第2麦の里・新たなグループホーム建設を目指して、職員の業務分担を整理する

[短期目標]

- ① 日中職員は充足してきているが、第2施設開所だけではなく、ホームの365日の開所や土日の日中活動の保障の必要性も出てきているため、職員の増員を目指す

現在の課題

4月から正職員1名、7月に準職員1名、11月にパート職員1名が増えましたが、3月に正職員が1名退職します。第2麦の里開所にはまだまだ職員が足りていない状況です。土日のホーム対応においては、対応できる職員が少なく、施設長・副施設長・理事長も夜勤の業務にあたっています。

良い点

少しずつスタッフの体制が整いつつあり、ホームの方でも、11月から夜勤のできる職員が増えました。また、年度終盤に職員募集のための動画作成を業者に依頼しています。

改善提案

1. 職員の募集を継続する

- ・第2麦の里開所のための職員募集を引き続き行います。

2. 土日のホーム対応の負担軽減

- ・土日に勤務可能な職員の募集を今後も行います。また、夜間だけではなく、土日の日中活動の保障ができるよう体制を整えていけるよう努めていきます。

- ② 第2麦の里建設が決まったため、準備として職員と仲間の配置の変更等の調整を具体化していく

現在の課題

第2麦の里は完成し、3月に引き渡しとなりましたが、職員や仲間の配置は何も決まっていません。

良い点

第2麦の里について、仲間の会で話し合う機会を設けることができました。

- ・今後どんな仕事をしていきたいか、どんな活動をしていきたいか希望を聞いていきます。

改善提案

1. 配置の相談

- ・6月の開所に向けて、職員と仲間の配置を具体化していきます。

2. 仲間の会の開催

- ・今後どんな仕事をしていきたいか、どんな活動をしていきたいか希望を聞いていきます。

③ 送迎・夕方の掃除など業務分担を見直し、振り返りやケース検討の時間をより大切にしてい

現在の課題

送迎の調整は日々行っていますが、朝は多くて10コース、帰りは多くて11コース。多くの車両で職員が出かけています。また掃除の見直しはできませんでした。時間的に早く帰らないといけない職員も多く、ケース検討やグループ会議を定期的に持つことは困難です。

良い点

17:00 ごろからのグループごとの振り返りは定着できました。

改善提案

1. 会議の時間の保障

- ・送迎を1便・2便として同じ車両を出すように工夫し、職員を捻出して夕方に話し合う時間を作っていきます。

2. 職員配置の工夫

- ・グループごとで会議が保障できるように、送迎・掃除の職員の配置を工夫していきます。

[中長期目標]

- ① 親御さんの高齢化に伴い、ホームの要望も強い。新たなグループホーム建設を目指していく

現在の課題

親御さんの高齢化により、新しいグループホームの建設を望む声が強まっています。今年の2月には、約20年間麦の里に通っていた仲間が、ご家族の病気の影響で、偶然空きが出た入所施設に移ることになりました。ご自宅での介護が難しくなり、麦の里を退所して新しい施設に移られましたが、親御さんとしては、慣れ親しんだ麦の里に通い続けさせたいというお気持ちがありました。

新たなグループホームの建設を今後も進めていく必要があります、同時に麦の里が開所していない土日祝日の昼間の活動を保障する場も作っていくことも課題です。

良い点

2年後のグループホーム建設に向けて、土地を確保できました。

改善提案

1. 職員募集の継続

- ・職員募集を今後もかけ続け、体制を整えていきます。

《2025年度(R7)事業計画》

【1】連携が取れるよう職員間のコミュニケーションを大切にする

[短期目標]

- ① 3年目以内の職員が多い中で、職員のレベルUPを図っていく
 - ・「各作業ごとに大切にしていること」、「仲間主体の介護・支援方法」の共有をしていく
 - ・「仲間と一緒に悩んで困って、一緒になって楽しむ」という基本姿勢を共有していく
 - ・「仲間を急かさない」時間の組み立てをしていく
- ② 各グループのまとめ役となる職員をつくっていく。
- ③ グループ会議を定期的で開催し、仲間たちのことを相談しやすい関係づくりを目指す。
- ④ 夕方の振り返りの時間を有意義なものできるように、各グループで「困ったこと」「悩み事」「良かったこと」「大事にしたいこと」ケース検討等を行い、共有できるようにする。
- ⑤ 各種委員会（感染症・虐待防止・個別支援計画）を定期的で開催する。また、BCP訓練・研修についても定期的に取り組めるように内容を精査していく。そして報告会や担当職員だけでなく、職員全体に内容を周知徹底できる体制を整えていく
(文章による回覧等)
- ⑥ 例会活動の組立て（参加確認、レジメ、送迎表等）を以前のように正・準職員で担当して順番に行う。
- ⑦ 情報共有の強化としてLINEグループでの情報共有、申し送りを
行い、情報の管理と効率的な共有を実現する。
- ⑧ 申し送りノートの確認を徹底していく

[中長期目標]

- ① ホームも含めて連携の仕方を検討する。

【2】スキルアップのため職員研修に積極的に参加していく

- ①研修の案内を用意して、積極的に参加する。
- ②強度行動障害、サービス管理責任者等の資格取得者を増やす。
- ③BCP 策定後の見直しと事前対策や教育・訓練等を年に 2 回は行い、PDCA サイクルを通して継続的に改善を行う。

[中長期目標]

- ①社会福祉士・介護福祉士ならびに第 2 号・第 3 号喀痰吸引等研修などの資格取得者を増やす。

【3】第 2 麦の里・新たなグループホーム建設を目指して、職員の業務分担を整理する

[短期目標]

- ①日中職員は充足してきているが、第 2 施設開所だけではなく、ホームの 365 日の開所や土日の日中活動の保障の必要性も出てきているため、職員の増員を目指す。
- ②第 2 麦の里の開所が決まったため、6 月に開所できるよう、職員と仲間の配置を具体化する。
- ③送迎・夕方の掃除など業務分担を見直し、振り返りやケース検討の時間をより大切にする。

[中長期目標]

- ①親御さんの高齢化に伴い、ホームの要望も強い。新たなグループホーム建設を目指す。

6. グループホームと仲間について

《2024年度(R6)事業計画と総括》

【1】 集団生活の中で「ルール」作り

① 集団生活の中で仲間同士の関係づくり

- ・ 定着している活動を継続していき、仲間同士のつながりを大切にしてい
- ・ 23年度に取り組んできた行事や活動を定着させ、その中で仲間たちの「やりたい」気持ちを大事にしてい

現状の課題

【七色の麦】

七色の麦では、仲間が増えたことから、日々の食事や入浴のサポートが忙しくなり、生活の場面で仲間と活動をして過ごすことが難しい日もあります。活動もそうですが、生活の中での役割の持たせることで（洗濯物たたみやワゴンを運ぶなど）、仲間たちにも達成感や仲間同士の関係づくりの場となっていく。

七色の麦の行事としては、発言のある仲間の意見が反映され、発言のない仲間の意見をどのように汲み取るかが課題となっています。提案が職員主導になることはある種仕方のないことですが、取り組んだ後、「取り組んでどうだったか」ということを仲間たち、他の職員と共有し、次に繋げていくことが大事となります。そのためにも「仲間の会」が必要となります。

【青色の麦】

青色の麦では、集団生活の中でも個を大事にしています。仲間たちが自発的にしたいことが出てくると、「集団生活」「ルール作り」に繋がってくると捉えています。今後の課題と言えます。

青色の麦では、「お楽しみ食」が主な行事の取り組みでした。「お楽しみ食」だけではなく、その他の行事にも取り組んでいくことが課題となります。普段とは違う仲間同士で楽しむ機会として大切にしたいと思っています。

良い点

【七色の麦】

七色の麦では、行事の増加により、仲間たちは様々な変化を楽しむ機会が増えました。例えば、花火をしたり、新しい取り組みを行ったりすることで、仲間同士で楽しめる機会となっています。また、事前に「仲間の会」を設けることで、仲間の意見を反映しやすくなり、仲間の「やりたい」気持ちを尊重した活動が実現されています。

また、グループホームが仲間にとっての第2の家であり、のんびりと過ごす場所としての役割を果たしており、その点も評価されています。

【青色の麦】

青色の麦では、仲間たち個々のペース、仲間それぞれの「やりたいこと」を尊重しています。仲間たちが日々を楽しく過ごせる要因となっています。

改善提案

【七色の麦】

1. 仲間同士の関係づくり場を構築

- ・ホームでの生活の場面で、仲間に役割（簡単なワゴンを運ぶ・洗濯物を畳むなど）を作っていくことで仲間意識を育てていく

2. 仲間の会の開催

- ・行事を行った後の「仲間たち、職員と振り返る」ために仲間の会を開いていく（良かったことなどの共有の時間）

【青色の麦】

1. 仲間たちの自発的な取り組みの尊重

- ・仲間たちの「～したい」という自発的な行動・気持ちをより大事にしていく（自然発生的な集団生活・ルール作りに繋がっていくため）

2. 行事の増加

- ・「お楽しみ食」以外にも行事に取り組んでいく

【2】体験利用の仲間たちの定期的な受け入れ

- ①365 日対応の仲間の支援体制確立とホーム希望者への対応
- ・体験利用の希望者が増えてきている。このような中でも 365 日対応の仲間の支援体制を確立・グループホームの必要が迫られている仲間たちの対応に取り組んでいく

現状の課題

【七色の麦】

9 月から体験利用から仲間 1 名がレギュラーメンバーとなりました。親御さんも高齢になり、ホーム希望されている方もいます。アンケートを取り、5 月と 6 月に保護者会を開きました。2 年後の 3 6 5 日対応のホーム開所を目指し、具体的に進めていく必要があります。

【青色の麦】

昨年度末に 1 名の仲間が、3 6 5 日ホームを利用することになりました。7 4 歳の仲間が 1 人だけということで、今年度は、理事長・施設長・副施設長を中心として土・日・祝日を対応してきました。ホームのない土・日・祝日の日中・夜間と職員体制を整えていくことが課題となっています。

良い点

3 6 5 日の仲間の対応は受け入れることができました。年度後半に新たに週末に入れる職員を確保することができたため、新しい体制への移行が進んでいます。5 月と 6 月に保護者会を開き、現状のホーム希望者の把握は進んでいます。

改善提案

1. 365 日対応の支援体制確立

- ・365 日対応のために必要な職員確保と支援体制の整備を進める。以下の手順で進めていく

- ①365 日対応のホームの建設

- ②職員確保

- ③休日の日中活動等、土・日・祝の支援体制を整備

- ④利用者の選定

2. ホーム保護者会の継続

- ・ 365 日対応ホームの建設に向けて、保護者会を継続していく

②体験利用の継続

- ・ 変わらず体験利用の継続を目指していく。

現状の課題

体験利用の中にはマンツーマン対応の必要な仲間もいます。これまで対応職員を限定してきましたが、仲間も安定しつつあります。ホームに関わる職員は増えており、また、入職3年以内の職員が多い中で、体験の仲間との関係づくりが必要になってきます。

新たに体験利用を希望している仲間の受け入れや現状の仲間の泊数を増やすということが、課題となっています。

良い点

昨年度末に365日対応となった仲間が体験利用からレギュラーメンバーとなり、青色の麦の体験利用を取りやめ、七色の麦で体験利用者の受け入れをしていくことになりました。また、9月に体験利用からレギュラーメンバーになった仲間がいます。体験利用の枠は1日1部屋となりました。そのような中でも、体験利用を止めずにできたことは評価できます。新たに体験利用を希望する仲間にも対応できる体制が整いつつあります。

マンツーマン対応の体験利用の仲間に関しては、対応職員を限定することで、ホームでの生活リズムの構築などができつつあります。

改善提案

1. 職員の対応力強化

- ・ 入職3年以内の職員が多い中で、職員のスキルアップ（介護技術など）と仲間との関係づくりに注力していく
- ・ 職員間の連携を強化していく（情報共有など）。

2. 体験利用の課題の整理

- ・ 新しく体験利用を希望する仲間の受け入れ、体験利用をしている仲間の泊数を増やすなど今後について検討していく

【3】職員体制の確立と業務の確立

①ホームと日中施設との連携

- ・連絡業務は安定してきている反面、統轄職員の負担は大きく、今後、解決策を検討していく
- ・細かい連絡漏れのないようにツールの活用・記録の活用を検討していく。
- ・ホームの職員会議を開催していく（年４回）

現状の課題

ホームと日中施設との連携がスムーズでない状況が続いています。例えば、連絡帳は使用していますが、連絡帳の確認不足といったことが挙げられます。

ホーム中心で日中施設には来ていない職員においては、体験利用で来た仲間は初めての場合も多々あります。手慣れた職員からの指導・伝達を主にしていますが、クッションのかませ方や姿勢作りなど身体のこと、気を付けるポイントなど共有しきれていない部分があります。入る職員が見返せるような工夫が必要です。また、仲間の支援の方向性の共有も課題として上げられます。

良い点

職員間の連携強化や情報共有のために、会議の定期開催やツールの活用が提案されています。特に、LINE やパソコンの活用により細かい連絡漏れを防ぐための取り組みが検討されています。

改善提案

1. 会議の定期開催

- ・職員間の情報共有を強化するため、ホームの職員会議を年４回の開催を目指す。

2. 連絡ツールの統一

- ・連絡漏れを防ぐために、LINE やパソコンの活用を検討し、統一感を持たせる。
- ・ホームと日中施設との連携をスムーズにするため、リアルタイムに対応できる体制を構築する。

3. 職員の負担軽減

- ・早番・遅番の追加を検討し、職員の負担を軽減する。

4. 支援の方向性の共有

- ・ホームの仲間の支援の方向性を職員間で共有するための取り組みを強化する。

②職員確保

- ・ 365 日対応の仲間もいるため、夜勤のできる職員を増やしていく
- ・ 新たなホームの必要性もあるため、引き続き職員確保をしていく

現状の課題

青麦での 365 日対応が始まっているため、夜勤ができる職員を現職員からも検討する必要があります。ホームがある日の特に水・木曜日は、入・明の職員や遅番などから日勤の職員が少ない日も多々あります。日中の体制との兼ね合いが課題となっています。その一方で、七色の麦では、レベル低下してきている仲間もいる中で、男性職員の負担が大きいことも課題です。全体的にみて職員不足は否めません。

さらに、医療的ケアが必要な利用者に対して、丁寧で高度なスキルを持つ職員が必要です。

良い点

週末に青麦で勤務ができる職員が入職しました。これにより、新しい体制への移行が進んでいます。

改善提案

1. 夜勤職員の確保

- ・ 365 日対応を進めるため、夜勤ができる職員を現職員からも検討していく。

2. 職員不足の解消

- ・ 麦の里・ホームの職員不足を解消するため、職員募集と採用を進めていく。

3. 日中体制との調整

- ・ 夜勤と日中の体制をバランス良く調整し、全体的な支援体制を強化する。

4. 医療的ケアの強化

- ・ 医療的ケアが必要な利用者に対して、丁寧で高度なスキルを持つ職員の確保と研修を充実させる。

③職員のスキルアップと職員体制の強化

- ・ 仲間たちのホームでの生活が安定してきた中でも、レベル低下してきている仲間もいるため、ホームの職員体制を強化していく
- ・ 様々な障害を抱えた仲間たちがいる中で、仲間たちの生活の質を高めていくためにも職員のスキルアップが求められる。

現状の課題

避難訓練はほとんどいつも同じ職員が行っており、訓練経験のない職員が優先的に訓練を受ける機会が少ない状況です。

また、人手の状況により、その日の活動内容が変わるため、職員同士の連携が重要です。

強度行動障害に関する研修は是非受けた方が良いという意見もあります。介護技術のスキルアップ、また、間接業務の平準化と環境整備が必要です。

良い点

避難訓練が年に2回は行われており、仲間、職員のスキル向上に寄与しています。

改善提案

1. 避難訓練経験の共有

- ・ 避難訓練経験のない職員にも訓練を行えるよう日程を調整、スキルの共有を図る。

2. 早番の増員

- ・ 朝の時間帯はマンツーマン対応の職員がいないため、夜勤者、早番（女性）だけでの対応は大変になってきている。早番の増員を検討していく

2. スキルアップ目標の具体化

- ・ どのようなスキルアップを目指すのか、具体的な目標を提示し、計画を立てる。

3. 強度行動障害の研修実施

- ・ 強度行動障害に関する研修を定期的 to 実施し、職員の理解を深める。

4. 間接業務の効率化

- ・ 間接業務の平準化を図り、職場環境を整備する。

《2025年度(R7)事業計画》

【1】 集団生活の中での「ルールづくり」

集団生活の中で仲間たちの関係づくりを大事にしていく

[短期目標]

- ・ 小集団の生活の中で簡単な「役割」を作ることによって仲間意識を育てていく（七色の麦）
- ・ ルール作りの前に自発的にやりたいことが出せる環境と関係を作っていく（青色の麦）
- ・ 行事の年間計画をしていき、仲間の会で「やりたい」ことを引き出していく
- ・ 行事の後に「振り返る」時間を作って、仲間たちと共有していく

【長期目標】

- ・ 仲間たちが生活の中で「やりがい」「生きがい」を見つけていく

【2】 体験利用の受け入れ

【短期目標】

- ・ 現状の体験利用を継続していく
- ・ 「新たな体験利用希望者を受け入れる」「泊数を増やす」ことを検討していく

【長期目標】

- ・ 泊数を増やせるように体制を整える

【3】 365日対応の仲間への支援体制の確立とホーム希望者への対応

【短期目標】

- ・ 365日対応の仲間を受け入れている中で土・日・祝日の対応職員を確保していく
- ・ 新たなホーム希望者と話し合いを進めていく

【長期目標】

- ・ 2年後の365日対応のホームの開所に向けて話し合っていく

【4】 職員体制の確立と業務の確立

①ホームと日中施設との連携

【短期目標】

- ・ 夜勤者から次の夜勤者へ、また夜勤者から日勤の職員への情報共有（薬の変更など）がうまくいかない場面があるためLINE等のツールを活用して、随時変更があった場合に皆が確認できるようにしていく
- ・ 職員会議を年4回できるようにしていく

【長期目標】

- ・ ホームと日中施設の連携を強化していく

②職員確保

【短期目標】

- ・ 365日対応も始まっており、ホームも日中施設も職員が足りていないため、職員募集をしていく
- ・ ホームのレギュラーメンバーが増え、また、仲間たちのケアの充実のために特に男性で早番・遅番のできる職員を増やしていく

【長期目標】

- ・ 2年後に365日ホームが開所できるように職員体制を整備する

③職員のスキルアップと職員体制の強化

【短期目標】

- ・ 避難訓練は年2回やっているが、ホームに関わる職員全員が経験できるようにしていく
- ・ 体験利用・レギュラーメンバーの仲間の中には強度行動障害の仲間もいるため、強度行動障害の研修を積極的に受けてもらう
- ・ 職員のスキルアップのため、具体的な研修の案内を提示していく
- ・ 間接業務を整理し、分担していく

【長期目標】

- ・ 2年後に365日ホームが開所できるように職員体制を整備する

仲間三行総括

緑色の麦メンバー

TA. A

本年度9月よりレギュラーメンバーの仲間入りとなりました。以前から体験利用でホームに泊まっていたこともあり、レギュラーメンバーとの関係やホームでの生活にはすんなり馴染めたように思います。入所当初より夜間の失禁の漏れが問題でしたが、0時前までに一度トイレに行ってもらうことで夜間の失禁もほとんどなくなりました。また10月後半より夕食後に服薬して2時間ほど経過するとふらつきがあり、歩行が困難になることがありました。薬の量を調節することでふらつきも落ち着きました。ホームに帰ってくると自分で連絡帳と洗濯物をカバンから出して、洗濯物は洗濯機に入れてくれたり配膳用ワゴンを好んで押してくれたりしてくれます。口腔ケアでは歯磨きの時かなりの出血がありましたが、職員が丁寧に仕上げをすることで出血も少なくなりました。入所から半年が経ちますが、落ち着いて過ごせる場所となるようにご本人と共にしていきたいです。

(安保)

KO. K

本年度8月にはコロナ感染したり、左肘の腫れにより抗生剤を服用することがあったり、熱が出たこともありましたが、現在では元気にホームで過ごせています。浴後と朝の部分的な保湿を、前年度同様毎日継続することで、肌トラブルはありませんでした。ホームではコップ洗いの手伝いをしてくれたり、配膳用のワゴンをひとりで押してくれたりすることもあります。入浴時には脱いだ衣類をちゃんと自分のカゴの中にも入れてくれます。強くこだわる所があり職員を困らせることもありますが、そうしたこだわりの強い面も良いことととらえ、これからも見守っていきたいです。

(安保)

AI. M

9月から新しい仲間が入り、部屋を移動することになりました。慣れるか心配しましたが、本人はすぐに新しい自室を覚えてひとりでトイレから自室まで移動しています。今年度途中から今まで夕食後のトイレのあとは必ず自室のベッドへ行っていたのが、時々居間へ戻れるようになりました。関わりの面では、近くの仲間にタッチしたり、職員へ肩叩きのアピールしたり、入浴時に職員と遊んだりしています。これからは本人のスキンシップの取り方で関わって欲しいと思います。

(朝乃)

TS. M

昨年と比べると安定して眠れることが多くなってきました。夜中に稀に反り返りが強くなり、なかなか眠れない日があります。食事でも反り返りの強さによっては介助も必要になりますが、なるべく自食ができるようにしています。
身体を伸ばす時間を作るなどしてリラックスできるような環境づくりが必要です。(尚)

赤色の麦メンバー

AY. U

本人の好きなCDを聴いたり、仲間とテレビの音楽番組、YouTubeの童謡等を聴いて楽しく過ごされています。時々、健司さんと一緒に出掛ける買い物を楽しまれています。漢方の効果もあり、ほぼ毎日便が出ていますが、11月より毎食後に整腸剤も合わせて服用されています。9月に結膜炎と診断を受け、目やにが多くでるため点眼薬を2種類使用しています。10月頃には1度落ち着きましたが、落ち着かない状態であれば点眼を使用しています。10月後半より臀部を中心に大腿部、前腕等の荒れが酷くなり、家族の方が安心パットの使用を中止し、薬も調整されていましたが、なかなか状態が落ち着きませんでした。11月後半の皮膚科受診後、ヘパリンとデキサメタゾンを使用することにより、12月前半には皮膚の状態が落ち着きました。現在は時々荒れが酷くなることもありますが、良い状態を保っています。本人の訴えがある際にも保湿薬等で乾燥を抑え、看護師や家族の方と連携して皮膚の状態を確認していきたいです。

(高木)

SH. K

体験の仲間をよく気にかけて、布団を敷いてあげたり、一緒に遊んだり優しい一面がよくみられました。また、以前に比べると仲間と話をし、ゆずれることが多くなりました。5月に半袖を着て咳をしていたり、冬場にシャツを着ず薄い服で通所されたりと季節感がない事があるため、その都度確認と声かけが必要です。6月に咳が長引いていたため、家族の方が喘息を心配し受診されました。受診後、喘息、アレルギー対応の就寝薬と就寝前、朝に吸入を開始しています。薬の効果もあり、現在は夜中のせき込みが時々ある状態です。また、朝方鼻汁が出る事が多く、体調の変化にも注意が必要です。

(高木)

CH. S

今年度は、体重の減少が続いたことから、朝食の副食量と主食の量を増やして、食事量の調整をしました。その結果、体重も安定してきたことから、現在の量を今後も継続していきたいです。体調は大きく崩れることなく、過ごすことができます。浴室、居間、自室の場所をよくわかっており、自分で場所に向かっていくことや、マイペースに散歩に行くこともあります。自分のおもちゃが好きで、探しに行ってはよく遊んでいます。大好きな抱っこもしてほしいと職員や仲間に関わりについたり、みんなの輪の中に入っていくこともあります。

(柳原)

NA. T

11月より、お母様の要望で下剤の服用の仕方を見直しています。土曜日の活動日の有無や排便の状況により、細かく服用パターンを変えています。ご本人がスムーズに気持ちよく排泄できるように、様子観察していきます。食事に関してはやはり食事量に波があり、好きなパンや補食を用意して対応しています。痩せているので、安定した食事量が摂取できるよう支援していきたいと思います。

(朝乃)

GE. H

今年度、就寝中の発作で舌根沈下気味になることが見られたため、体位交換を適宜行うことを始めました。それからは窒息気味になることも少なくなり、呼吸状態も安定してきています。発作の頻度はその日によっても違い、体調面や気候など様々な要因が絡んでいるのではないかと思います。食事はしっかりとブレンダーにかけて食べやすい形態で提供しているため、咽ることもすくなくなかったです。全体として落ち着いて生活することができたと思います。

(市来)

青色の麦メンバー

Y0. K

青色の麦で興奮する回数も少なくなってきた、落ち着いて過ごせている日が増えてきています。不穏な言葉が出る回数もずいぶん減ってきて、昨年度は夜尿の回数もありましたが、今年は格段に減っています。

一人で部屋から出てトイレに行く動線上でも、迷うことなく歩き、一人で戻ってこれるようになりました。発語もずいぶん増えていて、今まで言ったことないような言葉や、「散歩に行きたい」等の要望もいえるようになっていきます。また、他の仲間のやり取りをよく聞いていて、そのマネをする等、話す内容も変わってきました。まったりするのも好きなので、Kさんのペース、意思でいろいろなことができるように心がけたいです。

(岩切)

MA. K

ルーティンに基づいて生活していくのが上手い仲間です。活動面では自分で選択して進めていますが、夕食後の過ごし方の選択肢が少ないのでワンパターンにならないよう選択する楽しさを提供できたらと思っています。基本的な生活リズムを大事にしつついろんな体験にもチャレンジしてほしいです。職員の言葉がけと本人の折り合いがつけばスムーズに行動ができるので、これからも本人が自分で判断、行動ができるよう支援していきたいと思っています。

(朝乃)

T0. S

365日とホーム生活になり不安になってしまうことがあり、身体的精神的に影響がでしたが、本人の頑張りで、乗り越えることができました。また、腸捻転になることで緊急外来に受診することが増え、3月に手術をしました。1週間入院した際、身体機能低下による車いす生活なるのではないかと不安はありますが様子を見ていきたいです。

(北村)

NA. M

今年度は不安感から「やりなおせ！！」とパニックになることが多くあり、落ち着ける場を提供するためにトイレや入浴の時間を確保し急かさないように接してきました。

徐々に落ち着きはしてきているが、拘りにつながらないように落ち着ける空間づくりに気を付けていきたいです。

(北村)

YU. Y

青では他の仲間の面倒見もよい一方で、職員によっては甘えたい場面も出てきて、のんびりする時間も増えています。薬、血圧の管理については、本人が自主的に行う一方で、数字の理解等を考慮し、職員も一緒になってサポートをしていく必要性があります。

本人は「料理が上手になりたい」「漢字の勉強がもっとしたい」とやりたいことがいっぱいあって、それを実現するために、本人なりに頑張っている姿も見られます。職員に対する愚痴はずいぶん減ってきて、ほがらかに会話できることが増えてきています。

(岩切)

体験メンバー

T0. A

ホームの利用にもすっかり慣れ、職員と布団の準備や夕方に入浴するなどホームでの生活スタイルが出来てきています。七麦でのお気に入りには amazon music や You Tube で音楽を聴くことです。歌ったり踊ったりと、とても楽しそうですが、職員が気を付けていないと自分ばかり好きな音楽を聴いている傾向があったりするのでホームで過ごす時のルールを本人と相談しながら決めていきたいです。

(安保)

ER. I

体験利用にも慣れてきて、夜間の体位交換もしているため、むせあげもなく睡眠もしっかりとれています。朝食もしっかり摂れています。いろいろな仲間たちが話しかけてくれるその雰囲気は本人に良い影響があると思われます。慣れた職員・仲間と一緒にということもあり、本人も楽しんでいます。

(川口)

MI. K

体験にも慣れてきたようで、来ると「楽しいことしたい」と他の仲間や職員を誘って、遊んで過ごしています。本人や他の仲間のリクエストで決め、かくれんぼなどを楽しんでいます。夜中のトイレについては、本人も気にしているようで、起こすタイミングについては、本人と相談して決めています。今後は本人のできる力を尊重して、浴室やトイレなどに自分で行くことができるようになってほしいです。

(柳原)

MA. K

青色の麦での体験利用から七色の麦の体験利用に変更になる際、ホームでのトイレや食堂等の歩く距離の遠さや、お風呂の手すりが変わる不安などがありました。実際に戸惑うことはありましたが、歩行器を使用し、入浴介助に慣れた職員での介助で行うことで不安感は軽減していきました。

ホームでは他の仲間との触れ合いは少なく、自室で持参してきた漫画を読んで好きなテレビを見て過ごしていますが、行事など楽しみがある際は本人より「参加したい」と意見があり、参加しています。

(北村)

Y0. K

今年度もこばと利用のため麦の里の利用はありませんでした。

(村松)

RY. K

体験利用ではありますが七色の麦ではムードメーカー的存在となっていて仲間や職員にもよく話しかけてくれホームが明るくなります。布団のシーツを外したりとできることは積極的にやってくれています。

(安保)

KE. K

七麦に到着した時には「お帰り。」と声を掛けると「ハイッ！」と大きな声で答えてくれます。食事もムース食を残さずおいしそうに食べてくれています。お風呂では毎回職員の声に合わせて両手をバシャバシャと動かして楽しそうな様子です。睡眠に関しては早目に起床することが多いですが、体位交換の際には、起きない時や起きてもすぐ再入眠するなどよく眠れているように思います。吸痰など医療的ケアが必要なため、今後看護師対応を考えていく必要があります。

(安保)

CH. K

今年度は4月、5月に2回、体験利用しました。睡眠が課題でしたが、昨年度からの利用で少しずつ睡眠時間も伸びてきていました。しかし、6月に発熱と咳があり、いつもと違う様子だったため、救急車で陶生病院に搬送されました。誤嚥が原因で、肺に膿が溜まった状態となっていたため、手術となりました。そのまま入院となり、気管切開・食道ろうの手術も受けました。定期的な吸引も必要となり、自宅では難しいことから9月からみどりのまち病院に入りました。同時に麦の里・七色の麦も退所となりました。

(村松)

AK. S

今年度も大きな体調変化はなく月1回の利用です。すっかり体験の生活にも慣れ、司会や寝具のカバー掛け、テーブル拭きの手伝いをしてくれ役割をもって生活することができています。活動面では夕食後に仲間たちと一緒に歌をリクエストしてうたったり、絵を描いたり、イベントも好きで「やりたい気持ち」が強いので、クリスマス会の飾り付けも積極的にしています。これからも楽しんで利用できるよう支援したいです。

(朝乃)

AR. S

昨年度より七色の麦の体験利用をされています。泊りの際はマンツーマンで対応しています。最初は外を指さし「家に帰りたい」という訴えが多く見られましたが、回数を重ねるごとに訴えもなくなってきました。また仲間とのコミュニケーションも見られ、ボール

遊びがしたいときは女性の仲間にボールを渡し「投げて」と拍手したり、のんびりしたい時は男性仲間の隣に座りのんびりしています。仲間の会ではクッションチェアに座り落ち着いて仲間や職員のお話を聞いて参加されています。入浴時、最初はすぐ湯船に入りたりましたが、職員のこえかけで、髪、身体を洗い入浴されています。

就寝の際はお部屋であまり寝たがらない為、ご本人の寝たい所で寝てもらっています。最初は職員と一緒に布団で寝ていましたが、慣れてようで、今は一人で布団で寝ることができています。今後ご本人のペースで楽しく過ごしてもらいたいと思います。

(伊勢)

MI. T

今年度は、年末年始にはゼロゼロが多く、発熱もありました。体験利用をキャンセルすることもありました。体験利用時にはゼロゼロして吸引するということもなく利用できています。本人も知った仲間・職員との生活で本人も安心しているように感じます。

(川口)

KE. N

今年度は職員との話し合いで尿器での自尿が定着しました。レギュラーの仲間だけではなく体験の仲間とのふれあいも多く見られました。不調の時にパニックが起こることはありますが、パニック前に自分から職員に相談してパニックにならないこともあります。本人の小さな変化にも気づいていくことが大切です。

(尚)

TA. N

慣れないながらも対応できる職員も増え、体験利用を継続できるようになりました。七麦では呼吸器を設置しての睡眠で安定して寝ることができないことが続いていましたが、秋頃からは少しずつ寝ることができる様になってきました。唇を噛んでしまうことも少なくなり、ホームの利用にも慣れてきたように思います。

(倉知)

NA. M

昨年度は親御さんの入院があり、体験利用をしましたが、今年度は、本人の意思から利用はありませんでした。定期的な体験利用に向けて、本人と話し合っていきたいと思っています。

(村松)

KO. M

ホームでの生活は一緒によく働いている女性の仲間と一緒に、基本自室で音楽を聴いてリラックスして過ごしています。

七麦に慣れてきた頃より施設内の棚の扉を開け物色することがあり、その際に空き瓶を見つけ2度、2階の窓から駐車場に目掛けて放り投げることがありましたが、それ以外は麦の里より穏やかに過ごせています。ご家族のご病気の関係で、入所施設に入ることになったため、2月に退所されました。
(北村)

KA. Y

本年度より七色の麦での利用となりました。七麦では「今日、泊まるの？」と何度も聞きつつ笑顔も多くみられます。音楽を聴きながら一緒に歌って楽しそうに過ごすことが多いです。七麦にも慣れてきたこともあって、最近では大きな声を出すなど本領発揮する場面も増えてきました。七麦の床や浴槽は滑りやすいため、滑らないよう工夫も考えなければいけないと思います。また睡眠時のいびきにも、今後注意が必要だと考えます。

(安保)

YU. Y

昨年度より七色の麦の体験利用をされています。七色の麦では自分のペースで過ごしています。回数を重ね、ここが泊まる所と認識しており、お部屋にかばんをおいておもちゃで遊んだり、テレビをみたりと七色の麦で過ごされています。

家に帰りたいのか外を指さして「帰りたい」の訴えもありますが職員の声かけで納得し、リビングいかれます。ついでに職員が少しの間、離れた際に、一人でカギを開け外へ出ていかれた事がありました。就寝まではマンツーマンで対応が必要です。泊まり始めの頃、入浴時には湯船にすぐ入りたがりましたが、現在は洗髪、洗体をしてから湯船にはいます。お部屋で過ごすことが段々と少なくなりリビングでクッションチェアに座り、仲間たちと過ごす時間も増えてきました。就寝は、投薬後お部屋で朝までゆっくり就寝されています。今後ともご本人のペースで過ごしてもらいたいです。

(伊勢)

RY. W

今年度も体験利用はありませんでした。こばとのショートステイを利用しています。利用にあたっては必要に応じて親御さんと話し合っていきたいです。

(村松)